

四国中央市発足10周年記念事業 「子ども議会」 会議録



平成26年8月6日

四国中央市発足 10 周年記念事業 子ども議会

*** 索 引 ***

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
出席議員	1
欠席議員	1
出席理事者	1
出席事務局職員	2
開 会（午前 10 時 04 分）	2
篠原市長の挨拶	2
開 議	2
日程第 1 会議録署名議員の指名	3
日程第 2 会期の決定	3
日程第 3 一般質問	3
鈴木千景議員の一般質問	3
篠原市長の答弁	3
真鍋うらら議員の一般質問	4
真鍋副市長の答弁	4
河本 瞬議員の一般質問	5
野村消防長の答弁	5
笹本真喜栄議員の一般質問	6
片岡教育部長の答弁	6
篠原昂斗議員の一般質問	7
篠原市長の答弁	7
安藤拓都議員の一般質問	8
喜井建設部長の答弁	8
苅田裕介議員の一般質問	9
篠原市長の答弁	9
休 憩（午前 10 時 53 分）	10
再 開（午前 11 時 03 分）	10
山田大輝議員の一般質問	10
利藤企画財務部長の答弁	10
脇 太翼議員の一般質問	11
篠原市長の答弁	11
石川愛梨議員の一般質問	13
篠原市長の答弁	13
賀上真央議員の一般質問	14
尾藤市民環境部長の答弁	14
高橋さと議員の一般質問	15
篠原市長の答弁	15
鈴木大樹議員の一般質問	16
篠原子育て支援担当部長の答弁	16
休 憩（午前 11 時 47 分）	17
再 開（午後 0 時 50 分）	17
議長の交代報告	17

	大西満王議員の一般質問	17
	青木福祉保健部長兼福祉事務所長の答弁	17
	鈴木凌馬議員の一般質問	18
	喜井建設部長の答弁	18
	鈴木瑞生議員の一般質問	19
	尾藤市民環境部長の答弁	19
	深川瑠美議員の一般質問	20
	真鍋副市長の答弁	20
	田辺亜輝議員の一般質問	21
	野村教育長の答弁	21
	細川雄生議員の一般質問	22
	篠原市長の答弁	22
	松本健太郎議員の一般質問	23
	坂上総務部長の答弁	23
	渡邊 杏議員の一般質問	24
	片岡教育部長の答弁	24
休	憩（午後 1 時 38 分）	25
再	開（午後 1 時 48 分）	25
	菰田竜也議員の一般質問	25
	高橋産業活力部長の答弁	25
	渡部竜徳議員の一般質問	26
	真鍋副市長の答弁	26
	高石菜月議員の一般質問	27
	篠原市長の答弁	27
	藤田真帆議員の一般質問	28
	喜井建設部長の答弁	28
日程第 4	総括質問	29
	大西満王議員の総括質問	29
	青木福祉保健部長兼福祉事務所長の答弁	29
	山田大輝議員の総括質問	29
	片岡教育部長の答弁	29
	賀上真央議員の総括質問	29
	篠原市長の答弁	30
	河本 瞬議員の総括質問	30
	野村消防長の答弁	30
	鈴木千景議員の総括質問	30
	青木福祉保健部長兼福祉事務所長の答弁	30
	真鍋うらら議員の総括質問	31
	篠原子育て支援担当部長の答弁	31
閉	議	31
	篠原市長の挨拶	31
閉	会（午後 2 時 32 分）	32

付 録

○四国中央市発足 10 周年記念事業子ども議会一般質問通告一覧表	33
----------------------------------	----

子ども議会議員名簿及び一般質問一覧表

議席 番号	議 員 名	学 校 名	質 問 事 項
1	大西満王（おおにしまお）	三島西中学校	医療について
2	鈴木千景（すずきちか）	三島西中学校	市の高齢化についての現状とこれからの対策について
3	真鍋うらら（まなべうらら）	三島西中学校	放課後児童クラブについて
4	河本瞬（かわもとしゅん）	川之江南中学校	消防・防災センターについて
5	笹本真喜栄（ささもとまきえ）	川之江南中学校	情報システムについての提案、情報端末の費用について
6	篠原昂斗（しのはらたかと）	川之江南中学校	四国中央市の防災の現状について
7	安藤拓都（あんどうたくと）	土居中学校	公園について
8	荻田裕介（かりたゆうすけ）	土居中学校	湾岸道路の新設について
9	山田大輝（やまだだいき）	三島西中学校	子ども、少子化について
10	高橋舞姫（たかはしまき）	新宮中学校	野生の動物などの被害を減らす方法や利用について
11	脇太翼（わきだいすけ）	新宮中学校	嶺南地域のさらなる観光振興について
12	石川愛梨（いしかわあいり）	三島東中学校	公害問題について
13	賀上真央（かがみまひろ）	三島東中学校	ごみの分別について
14	高橋さと（たかはしさと）	川之江南中学校	ふるさと納税について
15	鈴木大樹（すずきたいき）	三島南中学校	児童公園について
16	鈴木凌馬（すずきりょうま）	三島南中学校	道路について
17	鈴木瑞生（すずきみずき）	土居中学校	感知信号機への切り替えについて
18	深川瑠美（ふかがわるみ）	土居中学校	旧の国道安全対策について
19	田辺亜輝（たなべあき）	川之江北中学校	ネットいじめについて
20	細川雄生（ほそかわゆうせい）	川之江北中学校	子育てについて
21	松本健太郎（まつもとけんたろう）	川之江北中学校	えひめ国体について
22	渡邊杏（わたなべあん）	川之江北中学校	学校給食について
23	菰田竜也（こもだたつや）	三島東中学校	農業について
24	渡部竜徳（わたなべたつり）	三島東中学校	公害について
25	高石菜月（たかいしなつき）	三島南中学校	水路の整備について
26	藤田真帆（ふじたまほ）	三島南中学校	歩道橋の安全対策について

四国中央市発足10周年記念事業 子ども議会会議録

議事日程第1号

8月6日（水曜日） 午前10時04分開議

※開議宣告

※市長の議会招集挨拶

※議事日程報告

日程第1

会議録署名議員の指名

日程第2

会期の決定

日程第3

一般質問

日程第4

総括質問

本日の会議に付した事件

日程第1

会議録署名議員の指名

日程第2

会期の決定

日程第3

一般質問

日程第4

総括質問

出席議員（25名）

1 番	大 西 満 王
2 番	鈴 木 千 景
3 番	真 鍋 うらら
4 番	河 本 瞬
5 番	笹 本 真喜栄
6 番	篠 原 昂 斗
7 番	安 藤 拓 都

8 番	苅 田 裕 介
9 番	山 田 大 輝
11 番	脇 太 翼
12 番	石 川 愛 梨
13 番	賀 上 真 央
14 番	高 橋 さ と
15 番	鈴 木 大 樹
16 番	鈴 木 凌 馬
17 番	鈴 木 瑞 生
18 番	深 川 瑠 美
19 番	田 辺 亜 輝
20 番	細 川 雄 生
21 番	松 本 健太郎
22 番	渡 邊 杏
23 番	菰 田 竜 也
24 番	渡 部 竜 徳
25 番	高 石 菜 月
26 番	藤 田 真 帆

欠席議員（1名）

10 番	高 橋 舞 姫
------	---------

出席理事者

市	長	篠 原 実
副 市	長	真 鍋 讓
（企画財務部）		
部	長	利 藤 謙 二
秘 書 広 報 課 係	長	飛 鷹 彩 奈
経 営 企 画 課 主 査		宮 崎 利恵子
（総 務 部）		
部	長	坂 上 秀 樹
総 務 課	長	石 村 泰 彦

市民くらしの相談課長	宮崎 幹雄
人事課長	大西 克至
管理課長	三宅 卓史
税務課長	宝利 良樹
人権施策課長	古川 拡延
(市民環境部)	
部 長	尾藤 正芳
生活環境課長	森実 啓典
(福祉保健部)	
部長兼福祉事務所長	青木 基
子育て支援担当部長	篠原 知子
高齢介護課長	星川 美智代
こども課長	戸田 克明
(産業活力部)	
部 長	高橋 和雄
農林水産担当部長	薦田 敏良
農業振興課長	鈴木 和治
(建設部)	
部 長	喜井 孝志
建設課長	鈴木 宏典
(会計課)	
会計管理者兼会計課長	大野 育雄
(水道局)	
局 長	谷 博文
(消防本部)	
消 防 長	野村 泰一
安全・危機管理課長	山川 秀生
(教育委員会)	
教 育 長	野村 勝廣
教育部長	片岡 俊助
学校教育課長	原田 尋
国体推進課長	藤田 恭二
教育総務課長補佐	篠原 正二

出席事務局職員

局 長	安部 岳文
-----	-------

次長兼議事調査係長	宮崎 卓哉
議事調査係長	吉岡 美和
議事調査係長	高橋 秀和
議事調査主査	錦田 泰輔
議事調査主査	星川 貴宏
議事調査主査	梶原 千裕

午前10時04分開会

○大西満王議長

ただいまから、四国中央市発足10周年記念事業子ども議会を開会します。

○大西満王議長

市長より今議会招集の御挨拶があります。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

皆さん、おはようございます。御案内のとおり本議会の開会に当たりまして、一言私のほうから御挨拶を申し上げます。市内の中学生の皆様方に、本議会の御案内を申し上げたところ、市内の中学生より26名の皆様方が御参加いただきまして、大変ありがとうございます。質問の内容の中にも数名触れておりますけど、台風12号が何とか大過なく過ぎていってくれたら、続いて台風11号が接近しております。先日の12号では大雨のために、土砂崩れ等の危険が非常に迫っているということで、新宮地区、川之江の川滝地区を中心にして、避難をしていただきましたし、避難勧告という情報を発令させていただきました。

結果として、人的物的な被害は、本市においては、ほとんどありませんでした。ただ、続いて今来ている11号のコースは、危険なコースを通っておりますので、私達は、非常に心配いたしております。何とか大きな被害がないように通り過ぎることを願ってやみません。皆様方の質問の中に触れられておりますけれども、自然災害というのは、人間の力でどんなにやっても、全て防ぐということは不可能です。できるだけ被害を少なくする今風の言葉で言えば減災対策、災害を減らすい

うようにエネルギーを費やしていかざるを得ないというような状況にあると思います。皆様方の真摯な提案や質問に対して、我々も精一杯お答え申し上げていきます。皆様方がこういう議会を通じて、本市を今一步愛していただき、将来四国中央市の市政をあるいは、市の発展を担っていただけるように、その一助になればいいなというふうに思っております。それでは始めますのでよろしくをお願いいたします。

○大西満王議長

以上で挨拶は終わりました。

○大西満王議長

この際、御報告します。

高橋舞姫議員から欠席の旨届け出がありましたので、御報告します。

○大西満王議長

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程第1号のとおりであります。

○大西満王議長

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、議長において全議員を指名します。

○大西満王議長

日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

子ども議会の会期は、本日1日間としたいと思いを。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○大西満王議長

異議なしと認めます。

したがって、会期は1日間と決定しました。

○大西満王議長

日程第3、一般質問を行います。

この際、申し上げます。

各議員の発言は、発言通告時間内においてお願いします。

順次質問を許可します。まず、鈴木千景議員。

〔鈴木千景議員登壇〕

○鈴木千景議員

議席番号2番、三島西中学校の鈴木千景です。

本市の高齢化の対策について質問します。本市の人口動向を見ると、平成17年度から平成21年度にかけて、60から79歳で5.1%の増加、80歳以上で19.3%の増加が見られます。さらにこれから60から79歳で3.4%、80歳以上で10.1%の増加が予想されています。

このような高齢化社会に伴って、本市ではどのような対策を検討されているのでしょうか。他市では、高齢者の方を見守るシステムの1つとして、私たちが小学校の時に使っていたICカードで登下校の情報を両親にメールするというシステムを利用し、ひとり暮らしの高齢者の方の安否を確認したり、GPSを使って行方不明の方の捜索に役立てています。

これから増加すると思われる高齢者の方が、安心して生活していくために本市ではどのような対策を考えられているのでしょうか。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

〔篠原 実市長登壇〕

○篠原 実市長

鈴木千景議員の御質問にお答えを申し上げます。

まさに私なんかはいわゆる団塊の世代に入ります。もう10年たてば75歳を迎えるわけであり。鈴木千景議員の言われるとおり、2025年までの本市の高齢化率の増加が見込まれております。

本市においては、高齢者を見守るシステムとして、現在192名の見守り推進員の方が地域でひとり暮らし高齢者の見守り活動を行っています。また、緊急時には簡単に通報できる緊急通報装置の貸し出しや、お弁当の配達時に安否確認を行う事

業も展開しております。なお、GPS機能の活用については、認知症の方が徘徊により行方不明になった際に位置情報を検索できるよう、機器の貸し出しを既に実施しております。

また、認知症高齢者が行方不明になった時は、四国中央市認知症高齢者みんなで探そや！ネットワーク事業として、情報を市内放送や関係機関へメール、あるいはファクスで配信し、地域における支援体制を整備しています。

2025年をめどとして、高齢者が住みなれた地域で自分らしい暮らしができるように地域で助け合っていく体制づくりを目指し、それぞれの事業に取り組んでいるところであります。

この事業そのものを地域包括ケアシステムと申しますが、地域の皆さん方が主体となってくっていくもので、日常的な見守りや、日常的な人間関係をつくるきずなづくりの意味から、高齢者への挨拶や声かけなどの日常活動が重要なことだと思っております。

議員各位には、挨拶や声かけだけでなく、高齢者の皆さん方とのかかわりを少しでも深めていただくようお願い申し上げます。

いただきました貴重な意見は今後の参考にさせていただきますので、ありがとうございました。

○大西満王議長

鈴木千景議員。

○鈴木千景議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、鈴木千景議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、真鍋うらら議員。

[真鍋うらら議員登壇]

○真鍋うらら議員

議席番号3番、三島西中学校の真鍋うららです。

本市の教育について質問します。全国的に保護者がともに働いている家庭が増加しており、放課

後児童クラブに入れない小学生の待機児童がふえてきています。本市では、放課後児童クラブの対象が小学1年生から3年生までになっています。

しかし、小学4年生から6年生までは高学年とはいえ、家でひとりで過ごすことは保護者が安心して仕事ができず、仕事への影響、子どもの成長への影響が出ると思います。そこで私は放課後児童クラブの受け入れ対象学年を、各家庭の状況によって変えるといいと思います。そうすれば保護者も子どもも安心して過ごせると思うのですが、どうでしょうか。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

真鍋 譲副市長。

[真鍋 譲副市長登壇]

○真鍋 譲副市長

それでは私から真鍋うらら議員の御質問にお答えいたします。

放課後児童クラブは、国の方針として、来年平成27年度から、小学校6年生まで受け入れを広げることが決まりました。ただ、四国中央市ですぐに6年生までの受け入れができるようにするためには、さまざまな問題を解決する必要があります。その一つに、放課後児童クラブの施設の問題があります。

現在は3年生までを受け入れておりますが、満員になっている施設が多く、これ以上の人数を受け入れることで皆さんが快適に過ごせる場所が少なくなるかもしれません。また、国で決められております基準が守れなくなるかもしれません。こういったことから小学6年生までが通える児童クラブにするためには施設を新しく作り、また、改修し指導員の先生の数をふやすことも必要であります。

こうしたことから、これからの放課後児童クラブを考える方法の一つとして、子ども・子育て会議というものを編成しておりまして、その中で2,000名の皆様からどのような放課後児童クラブを希望しているかなどの調査を行っており、その調査をもとにこれからの放課後児童クラブにつ

いて、いろいろと協議や検討をいただきまして、その会議の中での御意見をもとに受け入れ体制等の環境整備に努めていきたいと考えています。以上でございます。貴重な御意見ありがとうございます。

○大西満王議長

真鍋うらら議員。

○真鍋うらら議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、真鍋うらら議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、河本 瞬議員。

[河本 瞬議員登壇]

○河本 瞬議員

議席番号4番、川之江南中学校の河本 瞬です。

近い将来、南海地震が来ると言われていますが、それに対して市のほうでは消防・防災センターを建てていると聞きました。そこで消防・防災センターについて質問いたします。地震や火事などの災害が発生したとき、なるべく早い対応が必要であると思いますが、消防・防災センターができることによって、それは早くなりますか、充実しますか。

また、災害発生時、消防・防災センターは四国中央市の拠点となると思いますが、地震が来たときに、崩れたり、倒れることなくしっかりと機能できるよう何か工夫したり、対策していることはありますか。

次に、消防・防災センターでは地震を体験することができる設備ができると聞きました。もしできるのならば、どういった人が体験することができるのですか。僕たち小中学生も自由に体験することができますか。

また、市内だけではなく、市外からも招くことができるような体験プログラムや設備の充実を期待します。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

野村泰一消防長。

[野村泰一消防長登壇]

○野村泰一消防長

河本 瞬議員の御質問についてお答えします。

1点目の消防・防災センターの災害への対応については、センター建設と同一スケジュールで高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線設備を一体的に整備しています。これは、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されている本市においても、大災害に備えた取り組みを進めていくことが急務となっているからです。

高機能消防指令センターでは、119番通報を受信すると同時に、消防・救急車両の位置情報を把握し、直ちに現場近くの車両に出動を指令します。

その後、周辺の情報や病院情報などを音声伝達だけでなく、文字などの視覚による情報も伝達することで確実な現場対応が可能となり、119番の受信から現場到着までの時間を短縮することができますので、今まで以上に迅速で効果的な消防活動が可能になります。

また、自家発電設備も整備しており、停電時にも災害対応が可能となっています。

2点目の消防・防災センターの構造などの対策ですが、建物と地面の間に免震装置を設置し、地震のエネルギーを吸収することで、ゆっくり揺れるようにする免震構造を採用していますので、建物への被害を最小限に抑えることができます。免震構造は、現在の地震対策としては最もすぐれています。

また、建物の中に空気の通り道を設けることで建物全体の自然換気を行い、夏は冷たく、冬は暖かい地下の空気を利用し、空調設備に係る負荷を低減するなど環境への配慮も行っています。館内には防災体験学習コーナーを初め、各種訓練・研修が行える部屋や、大災害時には避難所としても利用できるスペースを確保しています。

3点目の地震体験などについては、自主防災組織を初め、小中学生を含む市民や市外の方でも体

験することができる防災体験学習コーナーを1階に設けており、地震体験コーナーでは、東北地方太平洋沖地震を初めとする過去の地震をリアルに体感することができます。

また、防災シアターでは、これまでに起きた災害や、近い将来発生するかもしれない災害のイメージ映像を通じて、災害に対する知識を高めることを目的としています。

そのほか、瓦れき救助体験、119番通報体験、煙体験、消火体験などのコーナーも設けています。このような体験を通して、市民の皆様の防災教育に努めたいと考えています。

○大西満王議長

河本 瞬議員。

○河本 瞬議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、河本 瞬議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、笹本真喜栄議員。

[笹本真喜栄議員登壇]

○笹本真喜栄議員

議席番号5番、川之江南中学校の笹本真喜栄です。

私は小中学生の情報システムについて提案します。児童生徒全員に情報端末を1台ずつ配付し、それを授業で積極的に活用するものです。

現在、小中学校に通っている児童生徒は約7,000人です。情報端末が1台約3万円として、およそ2億円の費用がかかります。その費用をつくり出すために、次のことを提案します。

ほかの県に特産物や市のキャラクターグッズを多く地域に売ったり、市内でアイドルグループ、キャラクターを新たに作り、コンサートなどをするということです。

また、しこちゅ〜やほっこりんといったキャラクターを、さらに売り出していくためにバリエーションやふなっしーなどと一緒にテレビ出演できるような方法も考えたらいいと思います。人気が出

たらキャラクターグッズをつくり、全国で売れば情報端末の購入費用を賄えると思います。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

片岡俊助教育部長。

[片岡俊助教育部長登壇]

○片岡俊助教育部長

私から笹本真喜栄議員の御質問についてお答えします。

近年の情報社会の変化は著しく進化をしており、これからネットワーク社会の中で生きて、未来を担う皆さんは、生活のツールとして正しく情報機器を使いこなすことが求められております。現在、各学校のパソコン室には、1学級の人数分程度のパソコンが設置されていますが、一人一人の学習のスピードに合わせ、タイムリーにわかりやすい情報を扱うことができる情報端末機器は、今後大変有効な学習のツールとなってきます。

そのような中で、情報端末機器、タブレット端末を導入するとすると、本体機器だけではなく、教材用ソフトウェアや、一度にたくさんの端末をつなぐことができる通信機器などにも必要になります。

現在、全国的にタブレット端末を利用したモデル事業が実施されており、教育委員会では、このモデル事業などの実績を注意深く見守りながら将来の導入を検討しているところでございます。

それと同時に、皆さんが情報を適切に獲得する能力、情報を読み解く能力、正しく情報を発信する能力を身につけることが大切だと考えています。そのために、現在の学習内容や必要な技能を確実に習得していく教育活動に取り組んでいきます。

次に、具体的内容（2）のしこちゅ〜関連の質問にお答えいたします。

四国中央市のマスコットキャラクターしこちゅ〜は昨年、中学生による第1次選考を経てマスコットオーディションにより誕生することができました。

現在、お煎餅やクッキー、スポーツシャツ、玄関

マットなどいろいろな商品にキャラクターが利用されるようになってきています。また、8月3日に行われました第7回全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会など市主催行事や関係行事に参加して、しこちゅ〜を覚えてもらえるようPRも行っております。

さらに笹本真喜栄議員からは、市のアイドルグループや新たなキャラクターをつくり、コンサート活動や、しこちゅ〜がバリィさんやふなっしーなどと一緒にテレビ出演できれば、しこちゅ〜の人气が全国的なものとなり、そのことで市関連のキャラクターグッズなどの売り上げが伸び、市の収入が増加し、情報端末の費用をこの収入で賄うことができるという、夢あふれるすばらしい提案を受けましたので、笹本真喜栄議員の提案を大切に、現在全国的に有名になっている霧の森大福のように、しこちゅ〜や関連キャラクター等の人気が高まるような活動、PRをさらに進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○大西満王議長

笹本真喜栄議員。

○笹本真喜栄議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、笹本真喜栄議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、篠原昂斗議員。

[篠原昂斗議員登壇]

○篠原昂斗議員

議席番号6番、川之江南中学校の篠原昂斗です。

四国中央市の防災の現状について質問いたします。近い将来南海沖地震が起こると言われています。それに対して市内でも、消防・防災センターや耐震工事などを行っていますが、市内の公共施設にはどれくらいの費用をかけているのですか。また、小中学校の耐震化が済んでいない学校は何校ぐらいあって、全ての学校の耐震化が済

むのはいつごろになりますか。

次に、現在の四国中央市の防災の現状が僕は完璧ではないと思います。僕は耐震化が済んでいないところがあったり、土砂崩れが起こったりしたら被害が大きくなるんじゃないかと思ったりするのですが、現在の四国中央市の防災で一番力を入れないといけないと思う点はどこですか。

最後に、土砂崩れなどにより、山間部の交通が遮断される可能性があります。そうなった場合に防災ヘリはどのように活用しますか。また、防災ヘリの救助の事例があればお聞かせください。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

篠原昂斗議員の質問にお答え申し上げます。

先ほど消防・防災センターについては、野村泰一消防長から詳しく申し上げましたので、私の答弁からは省きますけれども、御案内のとおり南海トラフの巨大地震に対する防災力の強化というのは本市のみならず四国、日本全体の大きな課題となっております。現在、先ほど申し上げました免震構造の消防・防災センターの建設は順調に進んでおりますが、学校施設や橋の耐震化工事、また公民館や保育園の耐震診断などに今鋭意取り組んでおります。

このうち、小中学校で耐震化が済んでいないのは、現在工事中の学校を含めると、小学校で15校、中学校で4校であります。また、改築予定の学校を除いて、全ての学校の耐震化工事が終わるのは、現在の予定では平成28年3月の予定となっております。

これまで市内の公共施設の耐震化工事に要した費用は、約43億円となっており、公民館や保育園の耐震診断、橋の耐震化工事や設計委託などで、昨年度に使った費用は約1億8,000万円となっています。

また、先ほど申し上げた現在建設中の消防・防災センターについては、総額で約36億円となっ

ています。このように、市としても施設の耐震化工事などを進めておりますが、災害はいつ起こるかわかりません。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、建物の倒壊や道路の通行どめ、放置車両などにより、救助に向かった消防や警察など、現場に到着するのが大幅におくれ、倒壊した建物などから救出された方々の9割以上の方は、自分で脱出したり近所の方々が助けて救出されたのが大部分でありました。

ひとたび大災害が発生すれば、公の助力であります国や県、市町村の対応だけでは限界がありますし、スピードにおいて考えなければならないこともあります。これらのことから、本市の防災への取り組みとして、最も力を入れていく必要があると考えているのは、市民の皆さん一人一人が災害に対して自分の身は自分の努力によって守る自助、そして地域や近所の人々がお互いに協力して助け合っていくという共助の取り組みであり、またその意識であります。

自助や共助を十分に発揮させるためには、自主防災組織や防災学習などによる日ごろからの防災活動の促進が大切であることから、防災教育の推進や出前講座などによる自主防災組織の結成促進や、防災知識の普及啓発をより一層進めていくことが肝要であると考えております。

議員御指摘の防災ヘリにつきましては、日々の消防防災活動で大きな役割を担っております。昨年度は、本市の救急搬送で10件、救助活動で3件出動しました。このうち昨年9月の台風17号の際には、陸上交通が途絶えた山間部で孤立者の救助にも出動いたしました。引き続いて、災害に強いまちづくりを目指し、皆さんの協力や理解を得ながら施設の耐震化や防災啓発などに努めてまいりたいと考えております。

なお、最後になりますが市民皆さん方が、自分の命そして家族の命、そして地域の皆さん方と協力して、いかに自分たちがそういうことが起こったときにどういう行動をとるべきか。どういう行動をとらなければならないのか。それを日々、自分たちの課題として御努力いただくと。そのこと

が一人一人の力は小さくても、力を合わせれば私どものまちの大きな大きな防災力になっていくものと思っております。議員が言われた、いろいろな御意見を参考にしながら防災力の強化に努めてまいりますので、ひとつよろしく願いいたします。

○大西満王議長

篠原昂斗議員。

○篠原昂斗議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、篠原昂斗議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、安藤拓都議員。

[安藤拓都議員登壇]

○安藤拓都議員

議席番号7番、土居中学校の安藤拓都です。

現在、四国中央市には観光スポットとなっている公園がありますが、もっと全国に四国中央市をPRできるような大規模で、設備が整っている公園の建設を望みます。

このような公園でさまざまなイベント等を行うことによって、全国各地から足を運んでくれるようになると思います。そうすることで四国中央市をPRすることができ、市の活性化につながると同時に、市民の憩いの場になっていくと僕は考えます。

この建設にかかると予想される費用、県や市の予算等を踏まえ、このような全国にPRできる公園をつくることは可能でしょうか。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

喜井孝志建設部長。

[喜井孝志建設部長登壇]

○喜井孝志建設部長

安藤拓都議員の御質問についてお答えします。

一口に公園と言いましても、さまざまな種類があります。そのうち都市公園の種類としては、比較

的規模が小さくて近くに住む人が主に利用する公園で、誘致距離や面積により街区公園、近隣公園、地区公園といった種類があります。

例えば土居地区の小富士児童公園のような公園を街区公園、川之江地区の向山公園のような公園を近隣公園、また、土居地区の大地山公園のような公園を地区公園と位置づけています。

また、10ヘクタール以上の比較的大きな公園として、城山公園・三島公園などの総合公園や、伊予三島運動公園などの運動公園があります。さらに大きなものとして50ヘクタール以上の広域公園があり、特殊な公園として、風致公園・動物公園・植物公園・歴史公園があります。

このようにいろいろな公園がある中で、四国中央市の観光スポット的な公園としては、総合公園である城山公園や三島公園、そして、体育施設を備えた運動公園として、伊予三島運動公園などが上げられます。

御提案のような大規模な公園としては、例えば、香川県に国営讃岐まんのう公園や栗林公園などがありますが、面積がそれぞれ約350ヘクタールと約75ヘクタールと広大であり、国営や県営の公園となっています。

全国に誇れる大規模な公園を整備し、四国中央市を全国にPRし、全国から人を呼び込むという考えは大変素晴らしいと思います。

ただ、整備費用については、讃岐まんのう公園規模となると、数百億円の費用が必要ですので、市の年間予算全体と同じ規模の額となることが想定されます。市として限られた予算を有効に活用していくためには、多額の費用で大規模公園を整備していくよりも、既存の公園を充実させていくとともに、例えば、書道パフォーマンス甲子園などの全国的なイベントを公園施設内で行うようなソフト面の活用により、市の魅力をアピールしていきたいと考えています。

また、公園ではありませんが、新宮にある道の駅霧の森などのように、観光施設として多くの観光客の方が訪れるスポットもありますので、公園だけに限らず四国中央市のPRを行い、市の活性化につなげるとともに、市民の憩いの場を提供す

るための方策について、市全体で取り組んでいきたいと考えています。

○大西満王議長

安藤拓都議員。

○安藤拓都議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、安藤拓都議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、苅田裕介議員。

[苅田裕介議員登壇]

○苅田裕介議員

議席番号8番、土居中学校の苅田裕介です。

四国中央市は日本一の紙生産の工業地帯であり、数多くのトラックが通行しているため道が大変混み合っています。特に国道11号は湾岸工業地帯からのトラックが全て流れ込んでおり、伊予三島金子付近は慢性的な渋滞に困っている市民も多いのではないのでしょうか。

この渋滞を緩和するためには県道13号から分岐している湾岸道路を金子埋立地を経由し、三島川之江工業地帯へ直接入っていける道路を開通させる必要があります。この道路を開通させることにより、これまで国道11号を通っていたトラックも工業地帯から工業地帯へ直接移動できるので、国道11号の慢性的な渋滞が緩和されるだけでなく、産業にもよい影響が見られるはずです。今後の道路整備計画の御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

苅田裕介議員の質問に答えます。

議員御指摘のとおり、国道11号の慢性的な渋滞の解消には、新たな道路の整備が必要であると考えております。

具体的には、国道11号の北側に工業地帯、港湾

区域を結ぶ臨港道路が整備され、南側に国道 11 号川之江三島バイパスが全面開通すれば、市街地部分の渋滞の緩和に大きく寄与していけるものと思っておりますが、残念ながら 11 号バイパスも臨港道路も、現時点では、全体計画の中の一部しか供用されておられません。

11 号バイパスは、計画延長 10.1 キロメートルのうち、現在のところ中之庄町から上分町までの 6.5 キロメートルが完成しております。

上分町から川之江町のもとのフェリー乗り場付近まで 3.6 キロメートルが残っておりますので、国などの関係機関と協議を進め、早期の完成を目指していきたいと考えております。

一方、議員御指摘のありました国道 11 号の北側ですが、県道壬生川新居浜野田線から東に臨港地帯・工業地帯を通して、土居地域から川之江地区まで東西に一本のまっすぐな道が抜ければ、トラック等の大型車両を中心にした 11 号の混雑は大幅に軽減すると思われます。

金子地区の混雑は、御案内のとおり大型トラックが頻繁に往来します。そしてなおかつ、工場がたくさんありますから右左折車が多く、そんな関係で多く車両が行き交います。車両がたくさんある、通行する、往来するというのが混雑の一番の原因ですが、さまざまな要因があってそういうふうになっている。そして、今申し上げましたように港湾部・臨港部に土居地域から川之江地区まで海岸線を走る道路がつながれば、工場をつなぐ、倉庫をつなぐ大型トラックの車両がそちらのほうに流れますので、これは国道 11 号の混雑の大幅な軽減になると私も思っています。

現在、臨港道路の一部であります港をつなぐ橋の架けかえ工事、国や県に働きかけて、計画に沿った整備を進めていくとともに、今後議員御指摘の趣旨を踏まえて、この道路だけではなく、この道路とこの道路をつなげればこういうふうになっていくというような、そういう一つのネットワークをしっかりと計画立てて、それぞれの道路環境の改善に取り組んでいきたいと思っております。ぜひ、荻田裕介議員も将来免許を取って、車の運転する場合にはなるべくはあまり車が混

雑しない、そういう道路を通っていただいて、それぞれの市民の皆様方が意識の中で自分たちも交通混雑の軽減に寄与していくという気持ちで、いいドライバーになっていただいたらありがたいなというふうに思っております。

○大西満王議長

荻田裕介議員。

○荻田裕介議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、荻田裕介議員の質問は終わりました。ただいまから 10 分間休憩します。

午前 10 時 53 分休憩

午前 11 時 03 分再開

○大西満王議長

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、山田大輝議員。

[山田大輝議員登壇]

○山田大輝議員

議席番号 9 番、三島西中学校の山田大輝です。本市の少子化対策について質問します。調べたところによると、平成 2 年には本市の年少人口、つまりゼロから 14 歳までの人口が総人口の 19.3%であったのに対し、平成 22 年には、13.2%と 20 年で 6.1%減少しています。この資料から、このままでは本市の年少人口はさらに減少していき、小中学校に通学する児童生徒が減った場合、僕の母校やその他の市内の学校にどのような措置をとっていくのでしょうか。

また、本市ではこの少子化の原因をどのように考えているのでしょうか。そして、現在本市では少子化に対して、どのような対策をとっているのでしょうか。誠意ある御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

利藤謙二企画財務部長

[利藤謙二企画財務部長登壇]

○利藤謙二企画財務部長

山田大輝議員の御質問について、お答えします。

四国中央市の国勢調査人口は1990年の9万7,215人をピークに、2010年には9万187人と約7,000人減少しました。

また昨年、国立社会保障・人口問題研究所が、2040年までの人口推計を発表しましたが、当市の2040年の人口は、2010年よりさらに約2万3,500人減少し、6万6,687人となり、ゼロ歳から14歳までの人口も6,898人と約5,000人、率で言いますと4割も減少するという危機的な内容となっております。

当市の2010年の児童生徒数が約7,500人ですので、2040年には約4,500人となり、三島地域の小中学校の児童生徒数と同じ数、約3,000人が減ると見込まれます。そのことから、今後の児童生徒数がどうなるかを想定しながら、小中学校の統廃合などを検討していきたいと考えております。

次に、少子化の原因についてですが、一般的に、出生率の低下、未婚化、晩婚化などが上げられます。また、当市においては高等学校を卒業後、市外の大学、専門学校に進学する人がほとんどで、地元に戻って就職する人が少ないことも原因と思われる。

市では少子化対策としていろいろな取り組みをしており、市のホームページ子育て応援隊の中でも紹介していますが、誰もが安心して産み育てられるよう、例えば、市独自の制度として地元企業の協力を得て、紙のまちの子育て応援乳児紙おむつ支給事業を行っています。事業を始めて4年目を迎えましたが、大変好評を得ております。また、独身男女への婚活支援や地元への就職支援なども行っております。

現在日本の合計特殊出生率は、約1.4でございます。これは、一人の女性が一生のうちに産む子どもの平均数ですが、人口を維持するには、約2.1以上が必要と言われております。少子化・人口減少を食い止め、人口を増加させるには、3人以上の子どもを産み育てる必要があるということでございます。行政としても子育て環境を整備し、将来を担う若い方々が安心して子育てができる

環境を整備していきたいと考えておりますので、若い議員の皆様にも御協力をお願いし、答弁いたします。

○大西満王議長

山田大輝議員。

○山田大輝議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、山田大輝議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、脇 太翼議員。

[脇 太翼議員登壇]

○脇 太翼議員

議席番号11番、新宮中学校の脇 太翼です。

私は嶺南地域のさらなる観光振興と道路やトンネルの整備について質問します。新宮地域は近年道路やトンネルの整備が進み、通やすくなりました。そのため観光客がふえました。

このように嶺南地域も整備が進むと、観光客がふえると思います。また、2017年にはえひめ国体が開催され、スカイフィールド富郷に全国から多くの人が訪れます。

その時に向けて安全性、利便性を考えた道路やトンネルの拡張など、今後の整備計画をお伺いします。

また、自然のほうに目を向けると、山々の豊かな自然や四季折々の花などが大変美しいところでもあります。新居浜市から新宮地域へのサイクリングロードもできていますが、知っている人が少ないため、季節ごとの名所や見どころを伝えたり、市としてイベントを開催したりするなど、さらなる広報活動を進めていくべきではないでしょうか。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

脇 太翼議員の質問にお答えいたします。

最初に法皇トンネルについて申し上げておきます。現在の法皇トンネルは昭和 35 年に建設されました。脇 太翼議員も通行されたと思いますが、現在の法皇トンネルは高さは 3.5 m で幅は 4 m の 1 車線の規格となっており、ルーフの高い大型バス、高さの大きいバスにつきましては通行ができません。通行ができる自動車についても、待避所がありまして対向車が行き過ぎるのを待って通行ができる状態でありますけれども、現在の工事技術として今以上の待避所の拡幅することは技術的に不可能だと言われております。

愛媛県の知事が推奨している愛媛マルゴト自転車道のぐるっと別子・翠波はな街道のサイクリングコースともなっておりまして、自転車が通行するにも、暗く狭い危険なトンネルと言わざるを得ません。

法皇トンネルは、国道 319 号にありますので、新しいトンネルを建設するには国や管理をしている愛媛県に建設のお願いをする必要があります。

昨年 11 月に、市内の各種団体から成る新法皇トンネル建設促進期成同盟会が結成され、市内の各種団体が協力して、新法皇トンネルが早期に建設されるよう国や愛媛県に対して強く要望し、運動していくこととなっております。

脇 太翼議員御指摘のとおり 2017 年えひめ国体までに新法皇トンネルが開通すれば、全国から来られる選手や役員、応援の皆さんに交通アクセスに関して御迷惑をおかけすることはないと思われませんが、トンネル建設には多額の予算と日数を要します。そのため国や愛媛県の御理解をいただければ建設の運びになりますし、2017 年にスカイフィールドで行われます少年の部のラグビーの試合会場ともなりますので、それに支障を来すような工事日程でも困ります。私自身は今現在、愛媛県の中村知事にもお願いしているのは、えひめ国体が終わって工事にかかれるように、国体までの間にぜひ新法皇トンネルの建設の準備をしていただきたい、そういうお願いをしております。

なお、愛媛県にもよく似た状況のトンネルの要

望がありますので、新法皇トンネルの建設には地道に粘り強く運動を展開していくしかない、そのためには四国中央市民の皆様方の絶大な応援が要りますので、脇 太翼議員もぜひ応援をよろしくお願いいたします。

次に、脇 太翼議員から御指摘のありました広報活動についてであります。広報・宣伝戦略は、観光行政の展開では最も重要な課題であります。四国中央市観光協会には昨年度から、観光案内センター事業を委託し、これまでのような受け身の観光案内業務だけでなく、ホームページやフェイスブック等のソーシャルネットワーキングサービスを積極的に活用して、当市の観光物産情報を発信していきたいと思っております。

また、観光協会にはそういう努力をぜひやってくださいというお願いもいたしております。観光案内の力は、最終的にはいろんなメディア等の媒体を利用するという方法が大きな力にはなりませんが、一人一人の皆さん方が、人から人へ情報が伝わっていくと。そういうフェース・ツー・フェースというのが、地道な大きな大きな力になってくる。そういうふうに思っております。

本市においても、観光ボランティアガイドの育成に着手し、現在市内の数十人の方々が観光ボランティアガイドとして活躍していただいております。市民の皆様方も実際に知らないような本市の貴重なスポットや、あるいは観光の目玉、皆さん方も、えっそんなところがあったんと、知らなかった、行ったことがないというようなところも結構あります。皆さん方のところに一部ですけどパンフレットがあると思いますけど、木と花の名所八十八カ所を載せたロードマップの作成等、誘客の案内に努めているところでもあります。

嶺南地域でのイベントの開催についてですが、2 年前から富郷ダムの横のてらの湖畔広場感謝祭を実行委員会とともに実施し、今年度におきましては、四国中央市発足 10 周年記念事業として、別子・翠波はな街道の一部を利用して、第 1 回の四国中央サイクリング大会を 11 月 9 日の日曜日に、てらの湖畔広場感謝祭と同時に開催を計画し

ております。嶺南地域の皆さん方は、新宮地域の皆さん方と一緒に2つのダムと新宮ダムを含めまして、3つのダムが地域の皆さん方の献身的な御尽力と御努力をいただきまして、現在本市の生活用水、工業用水、農業用水を賄っております。私たちの四国中央市はその3つのダムの恩恵があって、そして今日の本市があると思っております。御尽力をいただいた皆さん方に応えるためにも、嶺南地域の活性化と、先ほど申し上げた新法皇トンネルの建設は本市の重要課題と私は思っております。以上であります。よろしくお願いします。

○大西満王議長

脇 太翼議員。

○脇 太翼議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、脇 太翼議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、石川愛梨議員。

[石川愛梨議員登壇]

○石川愛梨議員

議席番号12番、三島東中学校の石川愛梨です。

四国中央市では、公害問題の中でも特に大気汚染に対する苦情、要望が多いというデータがありました。実際、私も去年修学旅行から帰ってきたときに、目が少し曇って見えたり、空気のにおいが臭かったという体験をしました。

そこで、大気汚染について調べてみると、光化学スモッグという現象が出てきました。光化学スモッグは、PM2.5と同じようなものでさまざまな場所で発生します。また、注意報、警報もあり、警報の場合には、外出を控えたり、外で運動を行うのを控えるというくらいのレベルになります。

では現在、四国中央市での光化学スモッグの発生頻度は、どれくらいなのか。また、光化学スモッグが人体に及ぼす影響はどれほどのものなのかをお伺いしたいと思います。

私は、今回初めて光化学スモッグについて知っ

たので、市民の中には、光化学スモッグのことを知らない方々も多くいるのではないかと思います。

現在四国中央市内では、PM2.5や光化学スモッグの観測が行われていますが、インターネット等でさらに多くの方々に広く知ってもらえるように発信していったほうがよいと思います。

四国中央市をよりよくするために私も努力していきたいと思いますので、御答弁をよろしくお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

石川愛梨議員の御質問についてお答え申し上げます。

御指摘のように、自動車や工場から排出される窒素酸化物や炭化水素が太陽からの強い紫外線を受けて、化学変化を起こし、光化学オキシダントという有害な物質が生成されます。大気中の光化学オキシダントの濃度が高くなると、大気が白くもやがかかったようになります。この現象を光化学スモッグといいます。

これは、4月から10月にかけての日差しが強く、気温の高い風の弱い日に発生しやすくなり、濃度が高くなると、光化学スモッグ注意報や警報が発令されます。四国中央市では、過去に平成19年5月9日と27日に注意報が発令されております。

光化学オキシダントやPM2.5の濃度につきましては、愛媛県が上分小学校の校庭と県の四国中央庁舎屋上に設置している測定局で24時間測定しており、県や環境省のホームページでも確認できます。

質問の市内の光化学スモッグの量については、本年1月から6月までの1日の平均値が川之江測定局で0.034ppm、伊予三島測定局で0.038ppmとなっており、1時間当たりの基準値であります0.12ppmを超過していることはありません。

また、人体に及ぼす影響については、光化学オ

キシダントの濃度が高くなりますと、目がちかちかする、喉が痛い等の症状が見られることがあり、洗眼やうがい、さらには医師の診察を受けることが必要となる場合もあります。

光化学スモッグ注意報の発令時には、市内放送、市ホームページで市民に注意喚起を行い、協力企業であります大規模工場の操業短縮により、光化学オキシダントの生成の原因物質である二酸化窒素の排出を抑制し、光化学オキシダント濃度の低下に努めることになっております。

私どものまちは、工場がたくさんあります。本市の経済や市民の皆さん方の生活も支えておるわけであります。しかし、市民の皆さんの健康や良好な生活環境を維持するために、大気汚染の状況等を監視するとともに、市のホームページの充実により注意報や警報発令時に備えた情報提供を今後とも行ってまいりたいと思っております。健康は何よりも大事であります。本市においてもそうした面に鋭意努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

○大西満王議長

石川愛梨議員。

○石川愛梨議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、石川愛梨議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、賀上真央議員。

[賀上真央議員登壇]

○賀上真央議員

議席番号13番、三島東中学校の賀上真央です。

当市のごみの分別の現状に対する取り組みについて伺います。

四国中央市のごみの排出量は、平成16年度には4万トンを超え、年々増加傾向にありました。平成17年度からは減少し始めてはいますが、1人当たりのごみ排出量は、全国平均と比べ多いと認識しています。

現在当市では、燃やすごみ、燃やさないごみ、資

源ごみ、有害ごみ、粗大ごみの5分別となっておりますが、他県、例えば長野県軽井沢町では、不燃ごみの中でも9分別となっており、さらに、町指定のごみ袋に記名するなど、細かく分別されています。

全国的に見ても、7から8分別の自治体が多く、分別が多い自治体ほどごみの排出量が少ないというデータが示されています。

ごみが削減できれば、ごみを収集する手間や処分するためのエネルギーも減らせ、ごみを燃やすときに出るCO₂も削減できると思います。市民にとって手間ではありますが、もっと細かい分別をし、市民のごみに対しての意識を深めるとともに、私たちの未来のためにも、再利用できるものは利用し、資源の無駄遣いをなくしていくべきだと思います。

当市では、なぜ5分別でごみの処分を行っているのか。今後指定ごみ袋の利用予定はあるのかをお伺いします。

また、市全体で新聞紙、古紙などのリサイクルを徹底させる取り組みを行っていただければよいと思います。

私もごみを減らす努力をしていこうと思うので、御答弁をよろしくお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

尾藤正芳市民環境部長。

[尾藤正芳市民環境部長登壇]

○尾藤正芳市民環境部長

それでは、私から賀上真央議員の御質問についてお答えをいたします。

本市における現在のごみ分別の方法についてでございますが、まず、燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、有害ごみ、資源ごみの5種類とし、そのうち資源ごみについては、さらに9分類し、全部で5種類13分別により回収をいたしております。平成16年の合併時には5種類11分別でしたが、平成21年より現在の種別になっております。

ここで、クリーンセンターに持ち込まれるごみの総量を申し上げますと、平成16年には約4万トン、平成21年には約3.1万トン、平成25年には約

3.2万トンとなっております、最近微増傾向ではございますが、合併時に比べますと市民の皆さんの御協力によりまして、約4分の1近くの減量を達成しております。

次に、今後指定ごみ袋の利用予定はあるかについてですが、現在本市では、白色半透明のごみ袋の指定をしております。ごみ袋の種類の拡大については、今後取り組むべき課題と考えておりますが、これには市民の皆さんの御理解と御協力が不可欠であり、ごみ処理に係る負担について、市民一人一人の意識向上を図り、取り組みやすくするようにしたいと思います。

次に、新聞紙や古紙などのリサイクルの徹底についてですが、現在、公民館や市役所の庁舎など市内の25カ所に設置をいたしております紙ングハウスにおいて、新聞、雑誌、ダンボールに加え、古着も回収しております。

また、自治会、愛護班、スポーツ少年団などが定期的に資源ごみを回収する団体回収も実施しており、その活動に対して補助金を交付いたしております。これらの古紙回収事業により、年間約3,000トンの古紙がリサイクルされております。

四国中央市全体のごみを減らすためには、議員御指摘のように分別を厳しくし、家庭のごみを減らすことが第一で、そのためには紙類などの資源ごみのリサイクルを心掛けることはとても重要なことであると思います。今後もさらなるごみ減量や資源のリサイクルにつきましては、市民の一人一人の皆さんの協力が必要であります。議員におかれましても、今後ごみの減量や資源のリサイクル等につきまして、さらなる御協力をよろしくをお願いをしたいと思います。以上でございます。

○大西満王議長

賀上真央議員。

○賀上真央議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、賀上真央議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、高橋さと議員。

[高橋さと議員登壇]

○高橋さと議員

議席番号14番、川之江南中学校の高橋さとです。

私は、ふるさと納税について質問させていただきます。

私が疑問に思っていることは、2点あります。

1点目は、現在の費用対効果についてです。広報活動に対しての効果は、どのようになっているのでしょうか。他市を見ますと、その地域のすごい特産品を配付している市もあり、このふるさと納税の費用対効果が大きいように見られます。四国中央市の現在の状況は、どのようになっているのでしょうか。

2点目は、そのふるさと納税の納税者に配付するものの提案です。例えば、紙おむつを配付することで、若い世代で幼児を持つ人々は、四国中央市のふるさと納税に興味を持ってくれると思います。また、和紙などを配付することで、機械化が進んでいる今、人の手でつくられた、温かいものに魅力を感じ興味を持ってくれると思います。だから、紙おむつや手すき和紙を配付してはどうでしょうか。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

高橋さと議員の質問に答弁申し上げます。

御案内のとおり、ふるさと納税制度が創設されたのは平成20年度でありました。本市においては、昨年度末までに約430件、金額にして7,400万円の寄附の申し出をいただいております。

広報活動としては、市のホームページにふるさと納税に関するコーナーを設置したり、全国のふるさと納税情報発信サイトに情報提供を行ったりしております。

また、ふるさと納税に関するパンフレットを作成し、市外で当市の出身者が集う会合等で配布し、寄附の呼びかけを行っております。

地域の特産品の配付については、1万円以上のふるさと納税、寄附をしていただいた方に対し、市の特産品約3,000円相当を記念品としてお送りしています。記念品を選んでいただけるように4種類のコースを用意しています。その内容としては、霧の森大福や新宮のお茶、地元のお菓子や紙製品、冷蔵食品等があります。

これらの広報及び特産品に要する費用として、平成25年度では約22万円かかっていますが、これに対してふるさと納税額、寄附金額は約2,200万円となっておりますので、費用対効果という面では、非常に効率のよい有意義な事業になっておると私は思っております。

次に、紙おむつ、手すき和紙などの配付物の御提案でしたが、紙おむつにつきましては、先ほども答弁いたしました。当市が平成23年度から市内の企業と協働で行っている乳児紙おむつ支給事業がお母さん方に大変好評を得ていることから、子育て世代にとっては大いに喜んでいただけるものと思われま。また、和紙についても、高橋さと議員が言われるとおり、温かさや四国中央市らしいものとして感じられ、配付物としては非常に魅力的なものだと思っております。

御提案いただいた内容につきましては、それぞれの原課、担当において、貴重な御意見としてぜひ参考にさせていただき、実現できるかどうかを含めまして検討してまいりたいと思います。

また、高橋さと議員も高校に進学され、いずれ四国中央市を離れるときが来ると思いますが、ぜひふるさと四国中央市を、また上分町をいつも心に思っただき、ふるさとが発展するように、また魅力あふれるようなまちになりますように、将来稼いでいただけるときが来たときには、ぜひ納税制度をよろしくお願い申し上げて私からの答弁といたします。

○大西満王議長

高橋さと議員。

○高橋さと議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、高橋さと議員の質問は終わりました。

○大西満王議長

次に、鈴木大樹議員。

[鈴木大樹議員登壇]

○鈴木大樹議員

議席番号15番、三島南中学校の鈴木大樹です。

僕の家近くには、地神さん公園という小さな公園があります。その公園は、ふだんの日には小学生が遊び、秋祭りのときには約100人の地域の人が集まります。道幅も狭く、太鼓台が通るときや自動車がすれ違うときはとても危険です。また、駐車場がなく、公園の東側には広場はありますが、現在は、実妙寺の敷地内なので駐車不可です。駐車場があれば、この危険は避けられると思いますが、いかがお考えでしょうか。

また、僕は、この公園で小さい頃から遊んでいました。休むときにベンチを利用しますが、とても日差しが強く、水道もないので熱中症にかかる可能性があると思います。そのベンチにスチールの屋根か、グリーンカーテンなどを設置することはできないのでしょうか。公園の緑化についても対策をすれば、さらに住みよい四国中央市になると思います。御答弁をお願いします。

○大西満王議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原知子子育て支援担当部長。

[篠原知子子育て支援担当部長登壇]

○篠原知子子育て支援担当部長

それでは、私から鈴木大樹議員の御質問にお答えをいたします。

現在、市内には児童遊園と呼ばれる小規模公園が70カ所あります。これらの公園ができた経緯は、以前から地域の子どもたちが近所の広場やお寺の境内を遊び場として利用しており、そこに市が遊具を設置しまして、児童遊園として整備してきました。このため、多くの児童遊園の草刈りなど日ごろの管理は、地元の人たちが行ってくれています。そして、近所の子どもたちの遊び場としての施設なので、場所も狭く駐車場がつくられるような広さが確保できない公園も少なくありませんでした。児童遊園の成り立ちやお寺の境内

や神社を使わせていただいていることや、近所の人たちが使用する目的であったため、駐車場をつくること自体が考えられていなかったのではないかと考えております。児童遊園のことを大切に考えてくれていること、とてもうれしく思います。これからも地域の遊び場として大切に利用していただけることを願っています。

また、確かに児童遊園の中には、木陰がない場所もあります。屋根をつくることは難しいかもしれませんが、グリーンカーテンなどのアイデアはとてもおもしろいと思っています。地元の管理をしていただける方たちと御相談してみたいのか、かなというふうに考えております。

昔から地域で愛されてきた児童遊園です。緑化も含めて住みよい四国中央市となるよう、今後も地域の御協力をいただきながら整備をしていきたいと考えております。以上です。

○大西満王議長

鈴木大樹議員。

○鈴木大樹議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○大西満王議長

以上で、鈴木大樹議員の質問は終わりました。

ただいまから休憩します。

再開は午後 0 時 50 分とします。

午前 11 時 47 分休憩

午後 0 時 50 分再開

○高橋さと議長

子ども議会実施要項に基づき議長を交代します。

休憩前に引き続き会議を開きます。質問を続行します。次に、大西満王議員。

[大西満王議員登壇]

○大西満王議員

議席番号 1 番、三島西中学校の大西満王です。本市の医療について質問します。

本市は、医療施設の充実と医師不足が問題点になっていると思います。

まず、医療施設の充実では、産婦人科や小児科

が少ないというところや緊急時の対応が難しいという点があります。これらを解消するために、本市にあらゆる事態に対応できる医療施設をつくって対応するとよいと思います。

次に、医師不足については、診察の待ち時間が長いことや時間外の診察が難しいという点があります。これらを解消するために、市から特別な手当を出したりして、医師が働きやすい環境をつくり、解消していけたらいいと思います。医師の不足では、本市で医師を育成できる施設をつくり、解消したらいいなと思います。以上のことは、本市だけでは難しいので、国や県と協力を進めていくといいと考えますが、以上のことについて、誠意ある御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

青木 基福祉保健部長兼福祉事務所長。

[青木 基福祉保健部長兼福祉事務所長登壇]

○青木 基福祉保健部長兼福祉事務所長

大西満王議員の御質問についてお答えをいたします。

その前に、当市の救急医療体制について、簡単に説明をいたします。

軽症者への対応としては、日曜、祝日は 2 カ所の医療機関による休日当番医、また平日夜間は市の急患医療センターで患者を受け入れております。

また、入院や手術が必要な重症患者につきましては、市内の 4 つの 2 次救急病院が交替で 365 日体制で対応をしています。

このうち、小児の重症患者につきましては、昨年の 8 月から、西条市、新居浜市及び当市の 4 病院が当番日を決め、3 市の救急患者を受け入れる、広域輪番制を実施しています。

それでは、ここから答弁に入らせていただきます。

言うまでもなく、全ての患者に対応可能な病院があれば理想的ですが、地方の医師不足が深刻となっている現状では、産科や脳外科など、医師数の少ない特定の診療科目については、各病院が持っているそれぞれの強みを生かし、役割分担していくことで、市内全体の診療機能を強化してい

くことが重要であると考えています。

先ほど説明しました小児の広域輪番制も、何とか限られた医療資源の中で、小児救急体制を維持していくために新しく導入された制度です。

次に、手当の支給や医師が働きやすい環境づくりについてですが、現在、産科及び小児救急に関しては、病院が医師や看護師等に支給する一定の手当について、市から補助を行っています。

また、昨年度には、市が補助することで、2カ所の病院内に保育施設や遊具等が整備され、医療従事者への子育て支援体制の充実が図られました。

3点目の医師を育成できる施設の整備等の対策ですが、引き続き国や県との連携強化や要望を行っていくのはもちろんですが、できれば本日参加いただいている皆様の中で、医療を志そうと思われる方がおられましたら、ぜひ医者等になり地元で診療いただきますようお願いをいたします。

また、地域医療を守っていくためには、できるだけ平日昼間に受診するなど、医療機関を適正に利用するための日々の心がけが重要となりますので、協力をお願いいたします。以上です。

○高橋さと議長

大西満王議員。

○大西満王議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、大西満王議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、鈴木凌馬議員。

[鈴木凌馬議員登壇]

○鈴木凌馬議員

議席番号16番、三島南中学校の鈴木凌馬です。

篠原市長さんは、市役所に徒歩で通勤されるときがあるとお伺いしましたが、今の四国中央市の道路状況については、どのようにお考えでしょうか。僕は、道路の整備について質問いたします。

豊岡町大町の旧国道には、通学路がありますが、狭くて危険な箇所がたくさんあります。

例えば、道幅が狭いので車同士が衝突しそうになることが多々あります。

また、僕も通学中の小学生を避けようとして、お年寄りと接触したことがあります。今は、家がたくさん建っているので道幅の拡張は難しいと思いますが、スクールゾーンの設置や新たな道路の建設についてはどのようにお考えでしょうか。

また、大町の銀千年というお店の南にある交差点のカーブミラーが小さく、見えにくいことがあります。この問題については、どのようにお考えでしょうか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

喜井孝志建設部長。

[喜井孝志建設部長登壇]

○喜井孝志建設部長

鈴木凌馬議員の御質問についてお答えをいたします。

豊岡町大町の旧国道については、御指摘のとおり道路の幅が狭いため、車のすれ違いや歩行者、自転車が安全に通行できない状況にあります。

また、道路の両側に家が建ち並んでいるため、道路を広げるのは大変難しいと考えています。

そこで、現在、市内の小学校や中学校が近くにある道路や通学路について、スクールゾーンの標示や、道路の端を緑色に着色する工事を順番に行っています。標示や着色により、通行する車に注意を促したり、歩行者や自転車と、車の通行する区間を分けることで、事故が起きにくく、安全に通行できるように工夫をしています。

また、新しい道路の建設については、現在、旧国道と高速道路の間に、三島南中学校から豊岡小学校へ向けて、地域の住民が安全に通行できる道路の調査をしております。延長が約1キロメートルと長く、工事の完成のためには、たくさんのお金と年月がかかりますが、歩道の設置ができるかなどを含めて今後検討を重ねていきたいと考えています。

次に、豊岡町大町の銀千年の南にある交差点のカーブミラーについてお答えをいたします。

現状は、縦60センチメートル横80センチメートルの2面ミラーが北側と南側についています。北側の電柱につけられているカーブミラーについては、街灯やとまれの標識もつけられており、ま

た貨物自動車など背の高い車の通行の邪魔にならないように高い位置に取りつけられているため、小さく見えにくい状態になっていますが、家が道路の近くまで建っている等の現場条件から低い位置にカーブミラーを新しくつけて見やすくするのは難しいと考えています。

そこで、道路の路面標示で薄くなっている停止線やとまれの標示について警察や公安委員会と協議をしながら改良していきたいと考えています。

また、見通しの悪い交差点では、一旦停止や徐行を行うなど一人一人が交通ルールを守って、安全に通行できるよう啓発にも努めていきたいと考えております。以上でございます。

○高橋さと議長

鈴木凌馬議員。

○鈴木凌馬議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、鈴木凌馬議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、鈴木瑞生議員。

[鈴木瑞生議員登壇]

○鈴木瑞生議員

議席番号17番、土居中学校の鈴木瑞生です。

感知式の信号機がふえてきていますが、まだ押しボタン式の信号機が設置されている場所もあります。

利便性や安全面において感知式信号機の方がすぐれていると思われます。安全面においては、押しボタン式の場合では、車の運転手が走行車の状況を見て進入するため、場合によっては無理に進入してしまうこともあります。それは、重大な事故を招く可能性があります。また、中にはわざわざ車をおりて、ボタンを押す人もいます。それも危険なことだと思います。一方、感知式にすることで自動で信号が変わり、心に余裕ができると思います。そして、それは安全につながっていくと思います。

これらのことから、全てのボタン式の信号機を

感知式の信号機へと切りかえていくことが望ましいと思われますが、いかがでしょうか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

尾藤正芳市民環境部長。

[尾藤正芳市民環境部長登壇]

○尾藤正芳市民環境部長

それでは、私から鈴木瑞生議員の御質問についてお答えいたします。

信号機の設置及び管理運営につきましては、市役所ではなく、警察署で行っておりますので、ここでは信号機の設置に関する考え方や現状についてお答えをいたします。

四国中央警察署管内には、信号機が合計で129基あり、そのうち押しボタン式の信号機は25基、感知式の信号機は9基あります。

まず、押しボタン式の信号機でございますが、こちらは歩行者を対象とした信号で、通常、ボタンを押すことで横断歩道側の信号が青色になり、歩行者が安心して道路を横断できる仕組みになっております。

一方、感知式の信号機は、車両を対象とした信号で、車両が感知されると信号が青色になり、交差点へ進入することができます。その交差点の状況、交通量によりましては、この2つの方式が併設されている交差点もあります。

鈴木瑞生議員より御提案いただきました、押しボタン式から感知式へ順次切りかえていくことについてでございますが、先ほども申しましたように、それぞれの信号機にはさまざまな特徴がありまして、現在設置されておりますのは、その交差点における交通量等も勘案し、最も適した信号機が設置されておりまして、交差点などでのスムーズな交通の流れができていると考えております。

しかしながら、鈴木瑞生議員御指摘のように、交差点での交通事故防止等は、市にとっても重要な課題でありますので、今後、各交差点の交通事情や周辺の環境に大きな変化があった場合には、警察署などと連携をとりながら、信号機の新たな設置や変更について慎重に考えて、迅速に対応し

てまいりたいと考えております。

○高橋さと議長

鈴木瑞生議員。

○鈴木瑞生議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、鈴木瑞生議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、深川瑠美議員。

[深川瑠美議員登壇]

○深川瑠美議員

議席番号18番、土居中学校の深川瑠美です。

私は、自分の地域の旧の国道の安全対策について、2つ質問します。

私の住んでいる関川の上野地区の旧の国道なんですけど、道幅が狭く、緊急車両が通れない道もあり心配しています。また、高齢者の方々もふえており、道の段差で転ぶ危険性もあるので道の点検をしてほしいと思います。

2つ目は、部活帰りの学生などが帰っている通学路では明かりが少なく、帰り道が危険です。自転車のライトだけでは先がわかりにくく、車に乗っている人も認識しにくい場合があります。

旧の国道を改善することにより、子どもから高齢者の方々が明るく住みやすくなると思います。何か対策はありませんか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

真鍋 讓副市長。

[真鍋 讓副市長登壇]

○真鍋 讓副市長

深川瑠美議員の質問にお答えをいたします。

四国中央市の道路の中には、議員が言われたとおり、舗装や橋などの工事をして相当の年数が経過してるものが多く、それらの老朽化により段差ができるなど問題となっている場所が目立つようになってきております。

このことから、平成20年度より市内の主要な道路の橋の点検を、また平成24年度からは舗装の点

検調査を実施し、ひび割れ等の道路の現状の把握を行っております。

これらの点検結果に基づいて、傷みのひどい場所から順次補修をするよう計画をしているところでもあります。

また、国や県におきましても、施設の老朽化については市と同様の状況となっており、今年度は全国統一の点検マニュアルがつくられました。これを受けまして、市では舗装や橋、トンネルなどの点検を、これまで以上に強化し対策を行っていきたいと考えております。

次に、道路が狭いところで火災や救急事案などが発生した場合の対応についてであります。緊急車両を運行する隊員は日ごろから車両が通れない道を十分に把握し、迂回路等の活用や軽四輪の緊急車両と同時に出勤をすることで、1分1秒でも早く目的地へ到着して対応ができるようにしております。

しかし、緊急車両が直接進入できる道路のほうが望ましいことには間違いはございません。そういったことで、狭い場所の拡幅に向けてましては、引き続いて努力をしていきたいと考えております。

次に、通学路の明かりの問題でございますが、道路の照明につきましては、交通事故の防止を図るために、車の運転手が暗闇の中で道幅や交差点、曲がり道などの道路状況と自転車や歩行者がいるかどうかなどの交通状況を的確に把握することができるよう設置することとなっております。通学路については、特に自転車や歩行者の安全を考えなければなりませんので、学校や四国中央警察署とともに点検を行い、道路が暗く危険な場所を解消していくように努めてまいりたいと考えております。

また、市におきましては、各自治会において夜間の犯罪の防止と通行の安全を確保することを目的といたしまして、防犯灯の設置補助事業を実施しております。その内容については、自治会内の道路等に防犯灯の設置を行う場合には、その費用の一部を補助し安全性の確保を図っているものでありまして、ちなみに防犯灯の設置基数であ

りますが、平成25年度には市内で350基余り、本年度、平成26年度も400基余りの防犯灯が設置される予定であります。深川瑠美議員が言われましたとおり、夜間の道路は暗く危険も伴いますので、外出する際や下校時にはお父さんやお母さんとの連絡を密にすることや、なるべく一人で行動しないことなども重要でございます。特に夏休みが始まり外出する機会も多くなると思われますので、外出の際には家族の方に行き先を告げるなど安全確保に努めていただけますようよろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

○高橋さと議長

深川瑠美議員。

○深川瑠美議員

ありがとうございます。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、深川瑠美議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、田辺亜輝議員。

[田辺亜輝議員登壇]

○田辺亜輝議員

議席番号19番、川之江北中学校の田辺亜輝です。

ネットによるいじめについて質問させていただきます。現在、パソコンやスマートフォンなどの通信機器の需要が高まり、多くの子どもが通信機器を扱っています。通信機器は生活に役立ちますが、その反面、掲示板などへの書き込みによるいじめや中傷行為が存在していることも事実です。私の身の回りでもTwitterやLINEなどに悪口を書き込んだり、特定の人物を中傷するようなやりとりが日常的にあると思います。このようなことがなくなるよう全校朝会や授業などで通信機器の使い方を学んでいます。

これに対して本市はこの現状をどこまで把握し、どのような対策をとることが最善であるとお考えですか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

野村勝廣教育長。

[野村勝廣教育長登壇]

○野村勝廣教育長

田辺亜輝議員の御質問にお答えします。

議員御指摘のとおり、インターネットや携帯アプリによる中傷やいじめの報告は、毎月上がってきている状況にあります。また、相談内容のほとんどは友達関係についてのものです。各学校でアンケートや教育相談、スクールカウンセラーの活用など、さまざまな方法で未然防止と早期発見に取り組んでいますが、教育委員会としましては、学校で解決されたもの、報告が上がったもの以外にも、誰にも言えず苦しんでいる人がいる可能性があるという考えで常に臨んでいます。

どんな便利な道具にもいい面と悪い面があります。例えば、理科の学習としてセミの羽化を動画に撮れば貴重な学習資料になりますが、個人の動画を勝手に載せれば犯罪につながる危険性もあります。使う人次第で役立つツールも人を傷つけるものにもなります。

これといった特効薬となるものではありませんが、各学校で、授業の中に情報モラルを位置づけることやケータイ・スマホ安全教室などの講座を利用することをこれまでも実践してきました。また、自分も友達も大切にすることを育てることに取り組んでおります。正しく情報を獲得、発信するためには、相手のことを考える力、役に立つ使い方を判断する力、自分自身を振り返る力、ルールを考え話し合う力、相談し一緒に解決しようとする力が必要でございます。各学校での取り組みの中で、このような力をつけて、自律した人間として成長していくことが、いじめの未然防止につながると考えます。市内でも、集会活動や生徒会活動でいじめをなくすための活動に取り組んでいる学校は多いと思います。

学校内では携帯電話等の使用は認められておりませんが、家庭で使っている生徒は市内の中学3年生で55%という実態があります。実際に購入し、使用するときのルールづくりなどは、保護者の方や皆さん自身にかかっております。

今回の御質問をきっかけに、自分たち自身でマ

ナーを確認し、ルールづくりをするような取り組みが広がることを願っております。教育委員会といたしましてもその後押しができるよう今後も取り組んでまいります。貴重な御意見をありがとうございました。

○高橋さと議長

田辺亜輝議員。

○田辺亜輝議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、田辺亜輝議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、細川雄生議員。

[細川雄生議員登壇]

○細川雄生議員

議席番号 20 番、川之江北中学校の細川雄生です。

僕は、子育てについて調べてみて、四国中央市は、子育てに優しいまちで、乳児紙おむつ支給事業などもあり、たくさんの子育て世代の親が助かっていると聞いています。

例えば今、母が保育士の仕事をしていて、保育士の人数が少なく大変だと言っておりました。今後、さらに子育てに優しいまちを目指すためにどのような具体的な案がありますか。また保育士の確保で工夫していることはありますか。御答弁お願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

細川雄生議員の御質問にお答えします。四国中央市では、毎年 10 月に子育て中の人を応援するイベントとして、子育てフェスタを開催しています。子育て応援活動の紹介や手づくりのグッズの販売、子育て応援キャラクターほっこりんと遊べるイベントなどをしております。ここへ来れば、子育ての情報がたくさんあるので、毎年多くの人

が参加してくれております。その他、来年までに子ども・子育て会議を開き、今後の四国中央市の子育てについて、さまざまな人の御意見をお聞きしながら、その中から、どういう方法また方策が施策として一番いいのかという検討をしていきます。幼稚園と保育園が一緒になった認定こども園をつくったり、子育て中のお母さんと入園前の子どもが、一緒に勉強したり遊んだりできる子育て支援センターについて考えています。また、児童センターや児童館では、子どもたちが自由に遊ぶことができる施設として活用していただいています。このように、子育てが楽しくできる工夫をしながら、子育てに優しいまちを目指していきたいと考えております。

次に保育士の確保についてであります。保育士の仕事は、子どもの命を預かる大切な仕事です。そのため責任も重く保育士を希望する人が年々減少いたしております。その中で、本市においては、少しでも働きやすい職場となるよう、職員同士のコミュニケーションを大切にしております。また、責任ある仕事には手当をつけ、働きやすい時間に働いてもらうパートの職員を採用しています。今後は、正規職員の募集を続けて保育士が仕事をしやすい環境をつくっていくように努めたいと思っております。

細川議員御指摘のとおり、子どもを育てていくことは大変な仕事でありますから、優秀な職員の皆様方が本市の子育て支援にかかわっていただけるように、私としても全力を挙げて努力したいと思っております。

○高橋さと議長

細川雄生議員。

○細川雄生議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、細川雄生議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、松本健太郎議員。

[松本健太郎議員登壇]

○松本健太郎議員

議席番号 21 番、川之江北中学校の松本健太郎です。

3年後の2017年にここ愛媛では64年ぶりとなる国体が開かれます。陸上競技や水泳そして野球など37もの競技が行われます。そして、ここ四国中央市ではその中でも野球、空手道、ラグビーフットボール、フェンシング、綱引きの5つの競技が実施されます。そこで各会場の衛生面がきちんとできているのかなと思いました。僕は野球をしています。よく川之江野球場にも足を運んだり、プレーをしたりしますが、ところどころにごみが落ちていたり、外野の芝も大分抜けてきています。このままでは選手が気持ちよく集中してプレーをすることができないのではないかと僕は思っています。また、僕のようにスポーツをしている人は国体について知っているけど、恐らくまだ大半の人は国体のことをあまり考えておらず、開かれることを知らない人もいるかもしれません。そのような人たちにも国体の意識を強めてもらうために、どのような取り組みを考えていますか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

坂上秀樹総務部長。

[坂上秀樹総務部長登壇]

○坂上秀樹総務部長

野球をされている松本健太郎議員のえひめ国体についての御質問にお答えします。

国民体育大会は、日本最大のスポーツの祭典として多く国民に親しまれておりますが、これはただ単にスポーツの振興というだけでなく、国民の健康増進や体力の向上を図ることを目的としながら、人々の豊かな暮らしや地域の活性化にも大きな役割を担っています。

国体まで3年です。この3年が、もう3年なのかあるいはまだ3年なのかと人それぞれ感覚の違いがあると思いますが、私はもう3年しかないという感覚で、もうすぐそこに国体が来ているというような感じをいたしております。3年後の2017年、平成29年9月30日から10月10日まで

と、このほどはっきりした日程が決まりました。この11日間の日程で愛媛県では64年ぶりとなる国体の開催が正式に決定いたしました。四国中央市でも松本議員が言われるように軟式野球など5つの競技の開催が予定されておりますことから、当市を訪れる皆さんには、市民総参加による心温まるおもてなしを行って、四国中央市の名を全国に発信する国体となるよう、開催に向けて準備を加速させていきたいと考えております。

野球をされている関係で、各競技施設の衛生面のことについて、特に野球場の外野の芝が抜けて、このままでは集中してプレーができないのではと心配していただいておりますが、競技会場となる施設や周辺の整備にあたっては、基本的なスタンスとしては会場の衛生面や環境の美化などに配慮しながら、今ある施設を最大限に活用することにしています。また、計画中ではありますが、関心のある野球場について言いますと、御指摘のように芝がでこぼこではプレーに集中することができませんから、芝の張りかえを検討することや、そのほかにもスコアボードやバックスクリーンの改修などの検討も行って、可能な限り改修をして競技が円滑に運営できるよう、そして何よりも選手の皆さんが集中してプレーができるよう整備したいと考えております。

次に国体への意識を高めるための取り組みについてであります。御指摘のとおり、国体の開催すら知らない人がいるとのことですが、四国中央市では、県でも同じですが、ここにグッズを持ってきているんですが、こういう四国中央市で開催する競技の名前を書いているティッシュや松本議員も持たれていると思うんですが、各学校に配付されているとお聞きしている書類入れ、シールなどを配ってPR活動に努めておりますし、またことしのみなと祭や紙まつりのうちわには、みきゃんや当市のマスコットキャラクターのしこちゅ〜を印刷し、いろいろなイベントでも国体PR活動を行っております。もし、えひめ国体のことを知らない友達がおいでしたら、ぜひPRしてほしいと思っております。最後になりますが、松本議員におかれましては、えひめ国体のスロー

ガン、君は風、いしづちを駆け、瀬戸に舞えのごとく、これからも勉強やスポーツに励んで、胸に抱いている夢をかなえて、世界に舞えるよう一生懸命頑張っしてほしいと思います。今回御提案いただいたことを踏まえて、これから国体の準備を進めていきたいと考えております。貴重な御意見ありがとうございました。

○高橋さと議長

松本健太郎議員。

○松本健太郎議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、松本健太郎議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、渡邊 杏議員。

[渡邊 杏議員登壇]

○渡邊 杏議員

議席番号 22 番、川之江北中学校の渡邊 杏です。

ふだんの学校給食で、私たちは四国中央市の農家の方々が育ててくださっている野菜などをおいしくいただいています。地域で育ったものを、私たち学生が学校給食を通して食べる地産地消は、私たちの成長の中で大切なことだと思うし、一人一人が四国中央市に触れることができる貴重なものだと思います。

しかし、私は市の地産地消の取り組みの中で一点だけ気になることがあります。それは、給食で取り入れている特産物の出荷までの過程です。食べ物をつくるということは、そう簡単なことではありません。農家の方々はきっといろいろな苦労を経て、私たちに食べ物を届けてくださっています。お昼の校内放送で名前を紹介するだけでは、私たち生徒も何げなく食べるだけになってしまっています。そこで、私はお昼の校内放送で地産地消の食べ物をつくる過程や農家の方々の農作物にかけた思いを紹介すべきだと思うのですが。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

片岡俊助教育部長。

[片岡俊助教育部長登壇]

○片岡俊助教育部長

渡邊 杏議員の御質問にお答えします。

四国中央市の地産地消の取り組みは、合併前の旧土居町から始まりました。

そのような中で、平成 16 年 4 月に 2 市 1 町 1 村が合併し、四国中央市となりましたが、旧土居町での取り組みが四国中央市の取り組みへとつながり、平成 17 年 9 月からは、四国中央市の米飯給食は 100% 地元産のお米が使用されています。

さらに、地元産野菜につきましても、うま農業協同組合や生産者グループの皆様の協力を得て、学校給食に多く使用できるようになってきました。

また、地産地消の取り組みの一環として農家の方と交流給食を実施している小学校もあります。直接農家の方と触れ合い、お米や野菜づくりの苦労話を聞いて、嫌いな野菜も食べられるようになり、その結果、給食の食べ残しが減ったという学校もあります。

こういうことから、お昼の放送では、今日の野菜をつくった農家の方を紹介しているものです。

御質問のとおり、野菜は農家の方が手間暇をかけ、我が子を育てるようにつくってくださっています。作物を大切に育て出荷する農家の皆さんの御苦労や御努力は大変なもので、給食時の短い時間では語り尽くせないほどです。できることであれば、中学校においても農家の方と交流をして、いろいろなお話を直接聞いていただきたいところですが、全ての小中学校で実施するのは、日程等の問題もあり、少し無理があります。渡邊議員がおっしゃるように小中学生の皆さんにこのような御苦労を知ってもらうことは本当に大切なことだと思います。

御提案のありました校内放送につきましては、学校と調整をしながら、どのような方法が一番よいか協議したいと考えております。

○高橋さと議長

渡邊 杏議員。

○渡邊 杏議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、渡邊 杏議員の質問は終わりました。
ただいまから 10 分間休憩します。

午後 1 時 38 分休憩
午後 1 時 48 分再開

○高橋さと議長

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、菰田竜也議員。

[菰田竜也議員登壇]

○菰田竜也議員

議席番号 23 番、三島東中学校の菰田竜也です。

四国中央市の農業について質問します。

四国中央市では、農作物にも被害を及ぼす、やまじ風がよく吹きます。やまじ風はとても強い風で、農作物に被害を及ぼし、農家を苦しめています。近年、農家の後継者が少なく問題となっています。やまじ風など自然災害の対策や補助がなければ、さらに農業をしようと思う人が減っていくと思います。農作物と農家を守るために、またこれ以上農家を志す人を減らさないためにも、やまじ風の対策や補助制度をつくってみてはどうでしょうか。具体的に、自然災害の対策というのは難しいと思うので、やまじ風によって被害が出た農家に補助金を出すとよいと思います。また、市でつくったものを市で消費する地産地消をもっと多く取り入れるべきだと思います。

学校給食では、米、いりこ、チンゲンサイは 100% 市でつくられるものを使っていますが、全体の使用割合は 28.2% で昨年よりも 3.5% 低下しています。多くの人に市の農産物のおいしさを知ってもらい、農家を志す人をふやすためにも、まずは学校給食で 35% の使用割合を目標に、市でつくられる農作物を取り入れてはどうでしょうか。さらに地域でつくられた農産物を販売するジャジャウマ市などの店を宣伝してはどうでしょうか。

最後に、学校給食のことについてですが、三島

東中学校の食缶に壊れているものがあります。衛生的にも悪いと思うので、一日も早く直してもらいたいです。また、東中だけでなく、各校の食缶も壊れているかもしれないので調査してみてもいいでしょうか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

高橋和雄産業活力部長。

[高橋和雄産業活力部長登壇]

○高橋和雄産業活力部長

菰田竜也議員の御質問にお答えします。

やまじ風については、原因究明と農業被害の改善を図るために、県や農協、農業共済組合とともにやまじ風対策協議会を設立し、気象観測データを集めたり、日本気象協会と連携し、市内の防災無線放送を通して、やまじ風の予報を放送することにより農作物等の被害軽減に取り組んでいます。

また、やまじ風による被害が出た場合の補助については、農業共済組合の制度として自然災害による農作物の被害に対して、共済制度が整備されていますので、今後も普及、説明に努めたいと考えています。

次に、地産地消については、現在学校給食に使用している地元農産物の割合は、平成 25 年度はお米については 100%、野菜については先ほど御紹介がありましたように約 28% 使用です。生産者の方も学校給食に地元の農産物をもっと使用してほしいと考えていますが、野菜は自然状況に左右されることが多いことから、給食で必要とするときに収穫できずに、材料がそろわない場合がよくあります。また、夏場は野菜の種類が少ないという実情もありますが、今後もさらに生産者と連携し、地元農産物の使用割合を引き上げる努力を重ねますので、御理解いただきたいと思います。

また、ジャジャウマ市など、地域の農産物を販売する産直市は、市内に 6 カ所あります。昨年度、農協など関係者が協力して産直市マップを作成し、市内観光施設や市の施設などに置いて宣伝しているところです。

また、地元特産品の宣伝の一つとして、里芋伊

予美人を使った大鍋芋たき試食会などのイベントも、市と農協などが一緒になって計画を進めています。

最後に、給食の食缶の老朽化については、今年度の予算に食缶の購入費を計上していますので、2学期からは新しい食缶を使用していただけるように準備しております。

○高橋さと議長

菰田竜也議員。

○菰田竜也議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、菰田竜也議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、渡部竜徳議員。

[渡部竜徳議員登壇]

○渡部竜徳議員

議席番号 24 番、三島東中学校の渡部竜徳です。

1 つ目、2011 年に東日本大震災が起これ、多くの死者を出すことになり、家族や仕事をなくす人がたくさんふえました。僕たちが住んでいる四国中央市も 30 年以内に南海トラフ巨大地震が起これと言われています。地震が起これたときに工場が破壊され、工場から公害を引き起こす物質が出る可能性があります。そのときのために工場を地震に強くしたりすることが必要だと思います。本市においては耐震化などの対策をどのようにお考えになりますか。

2 つ目、現在四国中央市では何カ所で公害の測定をされているのでしょうか。また、公害の測定箇所はどこにあるのでしょうか。それらについてお聞かせください。

3 つ目、現在、工場から二酸化炭素などの物質が排出されており、世界全体で温暖化が進んでいます。これからは、この四国中央市を中心に少しでも温暖化の進行を弱めるために、工場からの大気汚染につながる物質を減らしていくことも一つの手段だと思います。

今、二酸化炭素、ばいじん、窒素の排出量が少し

ずつですがふえています。その排出量を減らすためにもバイオマス発電などをもっと強化していくことが必要だと思います。市としては、これからバイオマス発電の導入についての計画はないか御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

真鍋 譲副市長。

[真鍋 譲副市長登壇]

○真鍋 譲副市長

それでは私から、渡部竜徳議員の御質問にお答えします。

まず、1 点目の工場の耐震化などの対策についてですが、今後想定される南海トラフ巨大地震等による大災害時には、市内の工場においても大きな被害を受ける可能性があります。十分な対策や準備が必要です。いざという時に産業活動が停止しないように、建物などの耐震化の促進や防災対策計画など、ハード、ソフト双方についても対策を講じていただくよう、今後、周知等を図っていきたく考えています。

次に 2 点目についてであります。まず、大気汚染につきましても、市内に 12 の測定局を設置し、自動測定機による連続測定を行っています。

また、水質汚濁については、市内 42 の工場などの排水や、3 地点の河川で採取した水を毎月調査し、さらに海水についても 9 地点で年 4 回の水質調査を行っています。

騒音、振動につきましても、住宅地や工場地域、そして高速道路等市内の 9 地点で、年 1 回 24 時間連続の測定を行っています。

悪臭につきましても、工場地域等でその大気を 8 地点で年 6 回、排水についても 2 地点で年 1 回、それぞれ調査を行っております。

市におきましても、公害につながる測定値を常に把握し、基準値を超える場合には、迅速に対応できるよう努めているところであります。

次に 3 点目の市のバイオマス発電の導入等の計画についてですが、木材や廃棄食材などの、生物由来の有機物をエネルギー源とするバイオマス発電については、現在のところ石油などの化石

燃料に比べるとエネルギー源の購入代や輸送代などが割高で、設備コストもかなり高く、逆に発電量自体は小さなことなど、多くの課題があり、市内でバイオマス発電に取り組む企業等が少ないのが現状でありまして、残念ながら今後の導入や取り組みは難しい状況にあります。

市においては、今後の地球温暖化対策として、公共施設等での省エネルギー化、住宅用の太陽光発電システム設置への補助をするなど、国や県などの機関と連携をいたしまして、対策を図っていきたいと考えております。

○高橋さと議長

渡部竜徳議員。

○渡部竜徳議員

ありがとうございます。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、渡部竜徳議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、高石菜月議員。

[高石菜月議員登壇]

○高石菜月議員

議席番号 25 番、三島南中学校の高石菜月です。

私の住んでいる家の近くに水路があり、集中豪雨やゲリラ豪雨などの大雨のときにこの水路の水があふれています。水路横の道は狭くて農家の人の車や自転車がよく通ります。水があふれ出したら、私の家の窓から見て少し不安になります。

また、川の氾濫などの心配もあります。三島南中学校の隣の西谷川も台風や集中豪雨のときにすごい勢いで流れています。そして土石流などの心配もあります。私の家の隣にある川も大雨のときにあふれそうになり家に入ってきたらどうしようかと思ったほど、勢いがすごく流れも速かったです。これからも地球温暖化やアスファルト化で水害が起こり得ると思うのですが、市ではどういう対策をとろうとしているのでしょうか。市のお考えをお聞かせください。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

高石菜月議員の質問にお答えします。

高石議員御指摘のとおり、最近は異常気象によるゲリラ豪雨や開発に伴うアスファルト化により、多くの雨水が水路へ流れ込み、あふれ出た水が住宅地などへ押し寄せることが多くなっております。

このような中、市といたしましては、大雨のたびに浸水する場所を調査して、水路を大きくしたり、ポンプや調整池を設置するなどの浸水対策工事を行っております。

先ほど高石議員が言われた、家の近くの水路は、愛媛県が管理しております二級河川で隅田川と呼ばれている河川だと思います。住民の皆様方が集中豪雨やゲリラ豪雨などによる氾濫等の心配のない安全な河川に改良していただけるように、県に対して要望もしておりますし、本市としてもできる限り県と連携をとりながら、安全で安心な河川にしていきたいと考えております。

また、西谷川については、集中豪雨や台風などにより、がけ崩れや土石流が発生し、被害を受けるおそれのある土砂災害特別警戒区域、また土砂災害警戒区域に指定されている場所となっております。西谷川のように土砂災害警戒区域に指定されている河川については、愛媛県において土石流が発生しない河川になるよう堰堤などの対策工事を行っているところです。ただし、このような河川改修工事には多額の工事費と年月がかかります。全体が完了するまでに思った以上に経費と期間がかかることが、非常に危惧されておりますし、そのことで、工事の途中で災害が起きたときにどう対処するか我々に課せられている緊急の課題という面も持っているわけであります。

本市では、土砂災害のおそれがあるときに、事前に連絡し避難することで、災害から身を守るように土砂災害ハザードマップを作成予定です。これは、土砂災害が起きそうな危険な場所などを表示し、市民の皆さんが安全に避難する際の参考と

していただくための地図で、避難路、一時避難場所、指定避難場所等の表示も入っております。普段の生活の中で、どこに避難するのか、その道順、家族の役割分担などを家族で話し合ってもらい、そのことが災害防止のきっかけになるものと確信しております。

今後も市民の皆さんが安心、安全で生活できる災害に強いまちづくりを目指して頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○高橋さと議長

高石菜月議員。

○高石菜月議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、高石菜月議員の質問は終わりました。

○高橋さと議長

次に、藤田真帆議員。

[藤田真帆議員登壇]

○藤田真帆議員

議席番号 26 番、三島南中学校の藤田真帆です。

寒川江之元の国道 11 号の上にかかっている歩道橋について質問します。

私が小学生のとき、毎日この歩道橋を通学路として使っていました。学年が上がるにつれ、歩道橋のさびがふえ、ひび割れが見られるようになり老朽化が進んできました。ある日、私が友達とこの歩道橋を通っていると、友達があるものにつまずいてこけそうになりました。それはコンクリートが割れた小さなかけらでした。このとき、心から危険だと感じました。国道11号は交通量が多く、お年寄りや子ども、小学生はほとんどこの歩道橋を渡ります。ですが、その歩道橋にひびがたくさんあり、立っているだけで恐怖感を覚えます。また、この歩道橋は建設から42年たっています。近々来ると予想されている南海トラフ巨大地震が起きると崩れそうで不安です。安心してみんながこの歩道橋を渡れるように整備をお願いしたいです。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

喜井孝志建設部長。

[喜井孝志建設部長登壇]

○喜井孝志建設部長

藤田真帆議員の質問にお答えします。

寒川町の国道 11 号江之元歩道橋は昭和 47 年の完成から 42 年が経過し、常に風雨にさらされ、次第に劣化してきたことが原因で、手すり部分のさびや階段部分の損傷など、藤田議員の友達がコンクリート片につまづいて転びそうになり危険を感じられたこと以外にも、平成 23 年には歩行者が階段をおりる際に足を滑らせて軽傷を負ったという連絡があり、歩道橋を管理する国土交通省西条国道維持出張所にお願ひし、階段部分に滑りどめテープを貼る安全対策を実施していただきましたが、これらの処置は、緊急の一時的な対策であり、利用者の皆さんからすれば歩行部分の幅が広く、階段とスロープの両方が設置され、小さなお子さんやお年寄り、体の不自由な方に利用しやすい歩道橋であることを望まれると思います。

現在、四国中央市内には、18 の歩道橋があり、そのうち国道にかかる歩道橋は全部で 16 橋ありますが、ことしは川之江町と上分町、豊岡町の 3 つの歩道橋でさびどめと色の塗りかえ工事が行われる予定で、きょうも川之江町と豊岡町では歩道橋の塗りかえ作業が行われていると思います。

また川之江町の別の歩道橋では塗りかえだけでなく補強も含めた補修工事が行われる予定と伺っておりますが、平成 12 年に補修工事が行われた江之元歩道橋はことしの補修対象とはなっていないようです。

近い将来に発生の予想される南海トラフ地震が起きた場合には、寒川町の海岸付近にお住まいの方は、江之元歩道橋を渡り避難しなければならないことも想定されることを踏まえて、国が今年度実施する専門家による定期点検結果に基づき補修、補強が必要であるならば早期に対応していただけるように、管理者である国土交通省に要望し、皆さんが安全、安心に渡れる歩道橋の整備に

努めたいと思っております。

○高橋さと議長

藤田真帆議員。

○藤田真帆議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、藤田真帆議員の質問は終わりました。

以上で通告のあった一般質問は全て終了しました。

○高橋さと議長

日程第4、総括質問を行います。

この際、申し上げます。

各議員の発言は、発言通告書の範囲内においてお願いします。

挙手の上、指名により、発言を許可します。

質問はありませんか。大西満王議員。

○大西満王議員

議席番号1番、三島西中学校の大西満王です。

医師不足、医療施設の充実の点から発展して質問します。近いうちに南海大地震が起これと言われている。その際に医師不足、医療施設の充実の点が響いてくると思われます。それをどのようにお考えですか。御答弁お願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

青木 基福祉保健部長兼福祉事務所長。

○青木 基福祉保健部長兼福祉事務所長

大西満王議員の御質問にお答えいたします。

災害が起きた場合には、相互の医療機関で連携して対応するというような協定も結んでおりますし、四国中央市にあります四国中央病院は災害時の拠点病院になっております。そこが、一番に対応するというところを決めておりますし、逆によその地域にそういうことがあれば、四国中央病院が医師を中心としたチームをつくり、派遣するということになっております。以上でございます。

○高橋さと議長

大西満王議員。

○大西満王議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、大西満王議員の質問は終わりました。

質問はありませんか。山田大輝議員。

○山田大輝議員

議席番号9番、三島西中学校の山田大輝です。先ほどの御答弁にあった学校の統廃合について質問します。もし、学校の統廃合をすることがあれば、どのようなことを基準にして統廃合するのでしょうか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

片岡俊助教育部長。

○片岡俊助教育部長

どのような状況で統廃合するのかということですが、先ほども申し上げましたけど、市内の小中学校の児童生徒は、大変少なくなっております。学級数で言いますと、一番標準的な学級というのは、1学年2学級から3学級、ですから1学校12学級から18学級が標準であるということも文部科学省から示されております。そういうこともいろいろ考えながら、その小学校中学校のその子どもたちの数がどう変わっていくかということをして10年20年のスパンで考えて、統廃合の計画を進めていきたいと思っております。現在も教育委員会の中では、統廃合の計画を練っておりますので、統廃合に向けて検討していきたいと思っております。以上です。

○高橋さと議長

山田大輝議員。

○山田大輝議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、山田大輝議員の質問は終わりました。

質問はありませんか。賀上真央議員。

○賀上真央議員

議席番号13番、三島東中学校の賀上真央です。私は、先ほどごみについて質問させていただきま

した。ごみの減量化のためには、市民一人一人の意識の改革が必要だと思います。市長さんは、御家庭でごみの分別やごみ出しにどのようにかわられていますか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原 実市長。

○篠原 実市長

私は、自分のごみはごみ箱に入れるだけです。時々嫁さんに怒られて、ごみ袋を集積場へ持って行くことが私の仕事であります。これ以上こらえて。

○高橋さと議長

賀上真央議員。

○賀上真央議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、賀上真央議員の質問は終わりました。

質問はありませんか。河本 瞬議員。

○河本 瞬議員

議席番号4番、川之江南中学校の河本 瞬です。

防災センターでは、地震などの体験ができるとお聞きしましたが、それはどのぐらいな人数が体験できますか。川之江南中学校では、1学年に約200人の生徒がいる学年があります。例えば、約200人を受け入れることはできますでしょうか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

野村泰一消防長。

○野村泰一消防長

河本 瞬議員の御質問ですけど、人数は制限がございませんが、グループ分けをしなければ、全員が地震体験の揺れるところに200人乗れるわけございませんので、ほかにもいろいろ経験・体験するところがございますので、例えば、10人ずつのグループ分けにして、順次次のコーナーに進んで行くというようなことで対応できると思います。ただ、200人となりますと、それだけでも

グループ分けしても班数が多くなりますので、全員体験していただくのに2時間とか時間を要するのでないかと思います。それと、参考までに三島医療センターの近くの三島分署、川之江八幡神社の近くの川之江分署でも、防災クイズとか119番通報体験コーナーとかシミュレーションの消火コーナーがございます。ここにも小学3年生が、諸見学で来られまして、体験学習しております。消防・防災センターのほうは、それより大規模なものになりますけど、三島分署・川之江分署に来ていただいた時には、やはりグループ分けしてやっていただいております。ただ、学校の授業の関係で時間が制限されて、体験できないまま帰る子がいて、泣かれる場合もあります。消防・防災センターに関しましては、時間さえございましたら、グループ分けしてどんどんやっていただきたらと思います。よろしくお願いします。以上です。

○高橋さと議長

河本 瞬議員。

○河本 瞬議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、河本 瞬議員の質問は終わりました。

質問はありませんか。鈴木千景議員。

○鈴木千景議員

議席番号2番、三島西中学校の鈴木千景です。

先ほどの一般質問では、高齢化の対策について質問しました。それに対し、機器の貸し出しを行っている。地域での助け合いが大切だという答弁をいただきました。しかし、自宅で暮らしている人だけでなく、介護施設を利用していらっしゃる人も多くいると思います。そこで、介護施設の数、介護士の人数などは現在十分な状態なのでしょうか。また、これからの高齢化に対応していただけるのでしょうか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

青木 基福祉保健部長兼福祉事務所長。

○青木 基福祉保健部長兼福祉事務所長

全てが全部できているのかということになりますと、できていないのが現状であります。施設へ認知症の方とか介護を要する方を入れるとすると大変なお金がかかってしまいますし、施設に入れてしまうとそれでいいのかなという問題も出てくると思います。介護士・ヘルパーの問題も全部完全に充足できているというような状況ではありません。処遇問題も含めて考えていく必要があると思っております。以上です。

○高橋さと議長

鈴木千景議員。

○鈴木千景議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、鈴木千景議員の質問は終わりました。

質問はありませんか。真鍋うらら議員。

○真鍋うらら議員

議席番号3番、三島西中学校の真鍋うららです。

先ほど放課後児童クラブの受け入れ対象学年について、質問させていただきました。そこで、放課後児童クラブの施設を十分にするためには、どれぐらいの費用がかかりますか。そして、放課後児童クラブの対象を6年生まで受け入れることは、今から建設すると間に合わないかもしれませんが、確実にいつかは建設されることになりますか。御答弁をお願いします。

○高橋さと議長

これより理事者の答弁を求めます。

篠原知子子育て支援担当部長。

○篠原知子子育て支援担当部長

なかなか厳しい御質問かなというふうに感じました。全ての施設をするために、どれだけ費用がかかるかというのは、今のところ試算はしておりません。今後、子ども・子育て会議で、どれだけの人が必要としているかということは今調べていますので、それによって費用も計算できるかなと思っております。ですから、費用については、今ここでいくらかかりますということはお伝えできません。申し訳ありません。

それと、6年生まで確実にできるでしょうかということなんですけども、本当に皆さんが必要としているのであれば、それを実現していくのが市の務めかなというふうには感じております。ただ、6年生まで全員ができますよというふうに今ここで答えすることはできないので、申し訳ないと思います。でも、それが皆さんが必要としているのであれば、実現するために努力していきたいと思っております。以上です。

○高橋さと議長

真鍋うらら議員。

○真鍋うらら議員

ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○高橋さと議長

以上で、真鍋うらら議員の質問は終わりました。

質問はありませんか。

[「挙手」する者なし]

○高橋さと議長

以上で総括質問を終了します。

○高橋さと議長

以上で本日の日程は全部終了しました。したがって、本日の会議を閉じます。

○高橋さと議長

閉会に当たり、市長より御挨拶があります。

篠原 実市長。

[篠原 実市長登壇]

○篠原 実市長

準備段階から言いますと5月から皆様方に御協力いただきまして、10周年のイベントとして子ども議会が、無事時間にほぼ準じた形で終了することができました。皆様方からそれぞれ問題提起あるいはいろいろな質問がありましたが、今本市のみならず、日本が抱えているそういう問題が抽出されてきているように私は思いました。インフラを中心にした道路の問題、あるいは高齢者対策、その中での介護をどうするのか、あるいは子

どもを育てていくのをどうすべきか、その子どもを育てる支援対策、そして、本質的緊急課題であります南海トラフに対応する災害対策、あるいはごみ問題を筆頭にそれぞれの環境問題、そういった問題に皆様方の質問が集約できるのでないか、そのように思っております。

また、国体の関係も質問ありましたが、これはあと3年でありますので、3年間全力投球をもって、少なくとも本市で開催される競技種目については、市民各位が御協力いただきまして、ぜひ立派に開催したいと思っております。余分ですけど、私が県議会議員している時に、十数年前に愛媛で、単独の国体開催やろうと、他の3県はみなやったわけです。そういうふうな運動を起こしまして、今日まで国体の開催がもう間近に迫ってきたという経過がありまして、私自身はそういういきさつもあって、全力を挙げて国体を立派に開催したいと思っております。それぞれ皆様方、3年後ですから、もう高校3年で今ごろは、進学する子は必死で受験勉強しているかもしれんですけども、ぜひ期待感をもって国体の開催というものを準備し、また御協力願ったらというふうに思います。

準備から言いますと朝の9時から、大変皆様方に御苦労いただきました。大変ありがとうございました。

○高橋さと議長

以上で市長の挨拶は終わりました。

○高橋さと議長

これをもって四国中央市発足10周年記念事業子ども議会を閉会します。

午後2時32分閉会

子ども議会実施要項に基づきここに署名する。

会議録署名議員

大西 満王

会議録署名議員

高橋 さと

会議録署名議員

鈴木 千景

会議録署名議員

真鍋 うらら

会議録署名議員

河本 瞬

会議録署名議員

世本 真喜栄

会議録署名議員

篠原 昂斗

会議録署名議員

中藤 拓都

会議録署名議員

荻田 裕介

会議録署名議員

山田 大輝

会議録署名議員

脇 太翼

会議録署名議員

石川 愛梨

会議録署名議員

賀上 真央

会議録署名議員

鈴木 大樹

会議録署名議員

鈴木 凌馬

会議録署名議員

鈴木 瑞生

会議録署名議員

深川 留美

会議録署名議員

田辺 亜輝

会議録署名議員

細川 雄生

会議録署名議員

松本 健太郎

会議録署名議員

渡邊 杏

会議録署名議員

菰田 竜也

会議録署名議員

渡部 竜徳

会議録署名議員

高石 菜月

会議録署名議員

藤田 真帆

四国中央市発足 10 周年記念事業 子ども議会一般質問通告一覧表

○一般質問

質問順位	質問者	質 問 内 容
1	鈴木 千景 議員	1. 市の高齢化についての現状とこれからの対策について (1) これから高齢者が暮らしやすい社会をつくっていくために、本市としてはどのような取り組みを行っていくのか
2	真鍋うらら 議員	1. 放課後児童クラブについて (1) 待機児童の受け入れる学年を高学年も受け入れてもらうことはできないのか
3	河本 瞬 議員	1. 消防・防災センターについて (1) 消防・防災センターができることによって、災害への対応は早くなるのか (2) 消防・防災センターのつくりについて、何か対策していることはあるか (3) 地震の体験ができるのならば、市内や市外の小中学生も体験できるのか
4	笹本真喜栄 議員	1. 情報システムについての提案、情報端末の費用について (1) 各学校児童生徒全員にパソコン、情報端末機器を持たせ授業をするお考えは (2) 機器の費用は、市でアイドルグループやキャラクターを新しくつくってコンサートをしたり、しこちゅ〜がテレビ出演できれば全国で人気が出るので、キャラクターグッズの売り上げで賄えるのではないのか
5	篠原 昂斗 議員	1. 四国中央市の防災の現状について (1) 四国中央市は現在市内の公共施設にどれくらい費用をかけているのか (2) 今の四国中央市の防災で一番力を入れないといけないと思うのはどこか (3) 山間部の救助のために防災ヘリを活用してはどうか
6	安藤 拓都 議員	1. 公園について (1) 全国に P R する大規模公園づくりにより、市の活性化を図り、同時に地域の憩いの場にできないか
7	荻田 裕介 議員	1. 湾岸道路の新設について (1) 国道 11 号の慢性的な渋滞の緩和をしてはどうか (2) 県道 13 号から分岐している港湾道路を川之江まで開通させてはどうか
8	山田 大輝 議員	1. 子ども、少子化について (1) 少子化に伴う今後の市の対策について (2) 本市では少子化の原因をどのように考えているか
9	高橋 舞姫 議員	欠席のため、質問は行いませんでした。
10	脇 太翼 議員	1. 嶺南地域のさらなる観光振興について (1) 法皇トンネルの拡張等さらなるアクセスの向上について (2) 桜、あじさい、紅葉等季節ごとの名所見どころの広報とサイクリングやその他、市としてのイベントの認定について
11	石川 愛梨 議員	1. 公害問題について (1) 大気汚染の中で光化学スモッグは人体へどのような影響を及ぼすのか。また、測定方法、量についてはどうか

質問順位	質問者	質 問 内 容
12	賀上 真央 議員	1. ごみの分別について (1) 四国中央市のごみの分別は、5分別ではなく、もっと細かくすべきではないか (2) 今後、指定ごみ袋の利用予定はあるのか (3) 市全体で新聞紙、古紙などのリサイクルを徹底させるべきではないか
13	高橋 さと 議員	1. ふるさと納税について (1) 現在の費用対効果について、どうなっているのか (2) 紙おむつ、手すき和紙など納税者に贈る物をふやしてはどうか
14	鈴木 大樹 議員	1. 児童公園について (1) 小さな公園に駐車場がないので、その整備は可能か (2) 公園のベンチはあるが、そのベンチに屋根などをつけて影になるようにはできないか
15	大西 満王 議員	1. 医療について (1) 医療施設の充実について (2) 医師不足の対策について (3) 地元で医師の育成について
16	鈴木 凌馬 議員	1. 道路について (1) 豊岡町大町の旧県道は通学路であるが、狭くて危険な箇所がある。歩道整備等はできないか
17	鈴木 瑞生 議員	1. 感知信号機への切り替えについて (1) 押しボタン式の信号機から感知式の信号機に切り替えてはどうか
18	深川 瑠美 議員	1. 旧の国道安全対策について (1) 四国中央市も高齢者の人々がふえてきているので、道路の点検をしてほしい (2) 夜の通学路は明かりが少なく、帰り道が危険なので明かりをふやしてほしい
19	田辺 亜輝 議員	1. ネットいじめについて (1) ネットいじめを防止するために四国中央市がどのような取り組みをしているのか
20	細川 雄生 議員	1. 子育てについて (1) 今後さらに子育てに優しいまちを目指すために、どのような具体的な案がありますか (2) 保育士の確保などで工夫している点がありますか
21	松本健太郎 議員	1. えひめ国体について (1) 競技施設の整備について (2) 県民の国体への意識を強めるために、今どのような取り組みをしているのか
22	渡邊 杏 議員	1. 学校給食について (1) 給食の時間に校内放送で、農家が地産地消の農産物をつくる過程を紹介したらどうか

質問順位	質問者	質 問 内 容
23	菰田 竜也 議員	1. 農業について (1) 農作物にも被害を及ぼすやまじ風の対策や補助はできないか (2) 地産地消をするために、学校給食に四国中央市でつくられた農産物を多く取り入れたり、地域でつくられた農産物を販売する「ジャジャうま市」などの店を宣伝できないか (3) 給食の食缶が壊れているものがあるので直してもらいたい
24	渡部 竜徳 議員	1. 公害について (1) 南海トラフ巨大地震により、工場破壊での公害防止に備えて、耐震化対策はどのように考えていますか (2) 現在、四国中央市では何カ所で公害を測定していますか (3) 市としてバイオマス発電の導入計画はないのですか
25	高石 菜月 議員	1. 水路の整備について (1) 水路が集中豪雨などのときにあふれて困るので、市ではどういう対策をしているのか
26	藤田 真帆 議員	1. 歩道橋の安全対策について (1) 寒川町江之元の歩道橋はひび割れが多くて危険です。何か対策はありませんか

